

調査・事例報告

木曾町における観光客の動向に関する調査研究（Ⅳ）

葛西 和廣・成 耆政・横山 満・樋口 剛志・鈴木 尚通

Study on Activities of Visitors to KISO Based on a Survey (Ⅳ)

KASAI Kazuhiro, SUNG Kijung, YOKOYAMA Mitsuru,
HIGUCHI Tsuyoshi and SUZUKI Naomichi

要 旨

木曾町における観光客に対するアンケート調査は2010年から2012年までの3年間は、10月下旬に木曾福島地区、日義木曾駒高原道の駅、及び開田高原アイスクリーム工房前で行ってきた^{1),2),3)}。今回は松商学園高等学校商業科の生徒と松本大学総合経営学部の学生が合同して調査を行う都合により、木曾町役場企画財政課および観光課の方々と議論した上で、時期を7月に変更するとともに、新たに道の駅木曾福島（木曾市場）を調査地点に加えることにした。調査活動は7月20日（日）の11時頃から15時頃まで、木曾福島地区（足湯、代官屋敷）、日義木曾駒高原道の駅、木曾市場、及び開田高原アイスクリーム工房前で行った。

キーワード

木曾地域 観光客の動向 アンケート調査

目 次

1. 序
 2. 木曾地域の特色
 3. 調査結果の分析
 - 3-1 来訪者の年齢層
 - 3-2 旅行日程と主な立ち寄り先
 - 3-3 現在地における滞在時間と旅行相手
 - 3-4 主な交通手段と旅行ルート
 - 3-5 現在地への来訪頻度と来訪目的
 - 3-6 訪れた、または訪れる予定の場所
 - 3-7 情報収集の方法と求める地域情報
 - 3-8 旅行予算とお土産代
 - 3-9 お土産として購入したものと探しているもの
 - 3-10 おいしかったもの
 - 3-11 木曾路の印象
 4. 結
- 文 献
アンケート調査（木曾福島地区、道の駅日義、木曾市場、開田高原を訪れた方対象）

1. 序

木曾町における観光客に対するアンケート調査は2010年から2012年までの3年間は、10月下旬に木曾福島地区、日義木曾駒高原道の駅、及び開田高原アイスクリーム工房前で行ってきた^{1),2),3)}。今回は松商学園高等学校商業科の生徒と松本大学総合経営学部の学生が合同して調査を行う都合により、木曾町役場企画財政課および観光課の方々と議論した上で、時期を7月に変更するとともに、新たに道の駅木曾福島（木曾市場）を調査地点に加えることにした。調査活動は7月20日（日）の11時頃から15時頃まで、木曾福島地区（足湯、代官屋敷）、日義木曾駒高原道の駅、木曾市場、及び開田高原アイスクリーム工房前で行った。当日の天気は晴れで、気温は福島地区では、21.9℃（11時）から24.9℃（14時）、開田高原では20.6℃（11時）から24.1℃（14時）であった。

アンケートに答えてくださった来訪者（以下では、来訪者と略記）は、木曾福島地区では25人（足湯11人、代官屋敷14人）、日義木曾駒高原道の駅では138人、木曾市場では29人、開田高原アイスクリーム工房前では57人、合計249人であった。その性別は、男性125人（50.2%）、女性110人（44.2%）、未記入14人（5.6%）であった。来訪者の居住県は、長野県60人、愛知県67人、岐阜県37人、静岡県8人、その他（都道府県）77人であった。

長野県からの来訪者60人中34人が居住市町村名を記入されていて、その内訳は、松本市6人、伊那市3人、長野市3人、木曾町3人、塩尻市2人、茅野市1人、岡谷市1人、喬木村1人、駒ヶ根市1人、山形村1人、上伊那郡南箕輪村1人、上松町1人、上田市1人、諏訪市1人、大桑村1人、辰野町1人、池田町1人、南木曾町1人、飯綱町1人、飯田市1人、箕輪町1人、木祖村1人であった。

その他都道府県からの来訪者は、全員が居住都道府県を記入されていて、その内訳は、大阪府16人、東京都15人、埼玉県12人、神奈川県7人、山梨県5人、千葉県3人、栃木県3人、京都府2人、広島県2人、香川県2人、三重県2人、滋賀県2人、兵庫県2人、岡山県1人、石川県1人、奈良県1人、福井県1人であった。

以下では、2で木曾地域の特色を概説した後に、3で249票の回答を長野県内（60人）、愛知他隣

県の3県（愛知県67人、岐阜県37人、静岡県8人、合計112人）とその他都道府県（77人）の3つの居住地域に分けて集計した結果を分析する。最後に、4で今回の調査によってわかったこと等を議論する。

2. 木曾地域の特色

「日本で最も美しい村」連合（通称、美しい村連合）はそれぞれの地域が、地域資源である美しい景観、環境及び文化を守り育て、小さくとも輝くオンリーワンに誇りを持つことを趣旨として、2005年10月に7町村が加盟して発足した。木曾町（開田高原）は2006年10月に美しい村連合に加盟した。2014年10月現在木曾町を含め、55町村が加盟している。

木曾地域の特色として、(1) 木曾路、宿場、(2) 自然、(3) 伝統工芸、(4) スローフード、等が挙げられる。

(1) 木曾路、宿場

木曾路には、中山道六拾九次のうちの、贄川、奈良井、藪原、宮ノ越、福島、上松、須原、野尻、三留野、妻籠、馬籠までの十一宿が含まれる。例えば、奈良井宿から藪原宿までの間は、旧街道が整備されていて、その間を徒歩で往来する人もいる。また、鳥井峠の鞍部に立つと奈良井宿を垣間見ることができる。

(2) 自然

森林セラピー基地として認定されている赤沢自然休養林、自然湖、木曾馬の里、こだまの森、油木美林、水木沢天然林、御嶽山、木曾駒ヶ岳などがあり、溪流釣り、登山、トレッキング、アウトレジャーなどが楽しめる。

木曾馬の里は、木曾町開田高原にあり、そこから御嶽山が一望できるとともに、日本原生種の馬の一種である木曾馬とふれあうことができる。

油木美林は木曾五木（アスナロ、サワラ、コウヤマキ、ネズコ、ヒノキ）等の樹齢300年を数える木々が生える原生林、学術参考林で、遊歩道にもなっている。

水木沢天然林は日本でも珍しい針葉樹、広葉樹が混生している天然林で、そこから木曾川源流のひとつが発する。また、環境省「平成の名水百選」に選定されている水もある。

(3) 伝統工芸

木曾地域の伝統工芸として何よりも木曾漆器があげられる。江戸時代中期に、木曾街道を往来する旅人に対して、檜、桂、栃などを材料として、曲げ物、ろくろ細工、櫛などを販売し始めたことがその始まりである。その技法としては、木曾春慶、木曾変わり塗り（堆朱）、塗り分け呂色塗りがある。木曾平沢地区は、漆工街として文化財保護法に基づき、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。

(4) スローフード

スローフード（郷土の味）では、①ほお葉巻き、②すんき、③そばまんじゅう、④鱒のうの花漬、⑤木曾の栗子餅、⑥桜の花漬け、⑦どんぐりコーヒー、⑧高原野菜、⑨赤かぶ、⑩木曾牛、⑪五平餅、⑫地ビール、⑬木曾路の地酒、⑭どぶろく、⑮自然水、等がある。すんきは、独特の酸味があるお漬物で、長野県味の文化財にも指定されている。五平餅は木曾を代表する名物である。2015年2月には第6回スローフード街道フェスタが開催されている。

3. 調査結果の分析

来訪者の性別は、長野県では計60人のうち、男性27人（45.0%）、女性33人（55.0%）、愛知他隣県では計112人のうち、男性65人（58.0%）、女性39人（34.8%）、未記入8人（7.1%）、その他の都道府県では計77人のうち、男性33人（42.9%）、女性38人（49.4%）未記入6人（7.8%）であった。

来訪者にアンケートに協力していただいた調査地点を図1に示す。長野県（長野）からの来訪者は、道の駅日義81.7%（49人）、開田高原11.7%（7人）、木曾福島地区（足湯または代官屋敷）3人（5.0%）、木曾市場1人（1.7%）の順であった。愛知他隣県（愛知他）からの来訪者は、道の駅日義50.0%（56人）、開田高原25.9%（29人）、木曾市場14.3%（16人）、木曾福島地区（足湯または代官屋敷）9.8%（11人）の順であった。その他都道府県（その他）は、道の駅日義42.9%（33人）、開田高原27.3%（21人）、木曾市場16.5%（12人）、木曾福島地区（足湯または代官屋敷）14.3%（11人）の順であった。

愛知他とその他の都道府県は、長野県と比較して、道の駅日義では32から39ポイント低くなっている。一方、開田高原では14から15ポイント、木曾市場でも12から14ポイント長野県よりも高くなっている。これらの差異は、開田高原の自然、そこからの眺望などや木曾市場における野菜、スイカ、果物などが県外からの来訪者にとっては魅力があることを示しているかもしれない。

3-1 来訪者の年齢層

図2に来訪者の年齢層の集計結果を示す。最も多い年齢層は、長野県からの来訪者では、20歳代と70歳代で18.3%（11人）、愛知他隣県からの来訪者では50歳代で25.9%（29人）、その他の都道府県からの来訪者では、40歳代で31.2%（24人）であった。若年層に注目してみると40歳未満の割合は、長野県40.0%（24人）、愛知他隣県25.9%（29人）、その他の都道府県20.8%

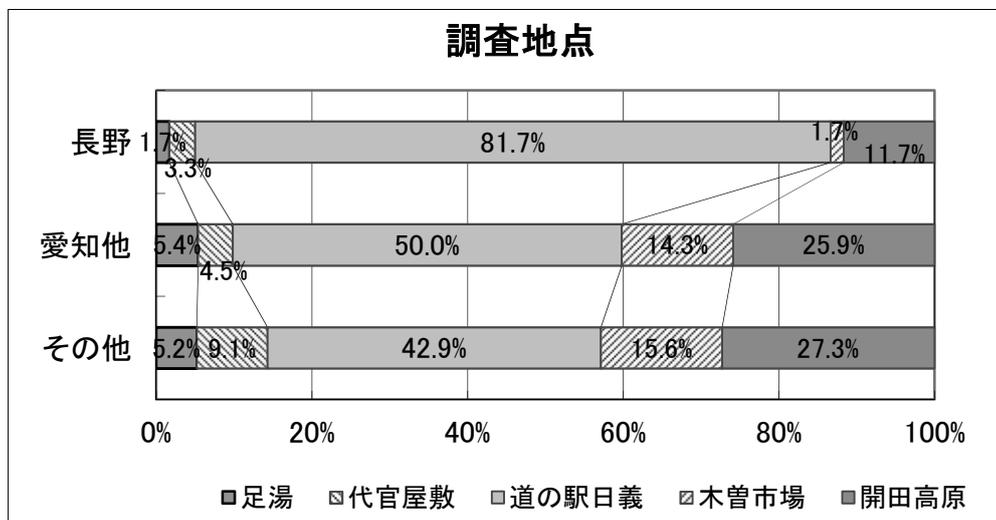


図1. 来訪者の調査地点

(16人)と、地元の長野県からの来訪者の方が他の居住地域からの来訪者よりも14ポイントから19ポイント比率が高くなっている。一方50歳以上の来訪者は、長野県46.7% (28人)、愛知他隣県54.5% (61人)、その他の都道府県48.1% (37人)と、愛知他隣県が他の居住地域よりも6ポイントから8ポイント高くなっている。

3-2 旅行日程と主な立ち寄り先

来訪者の旅行日程を図3に示す。長野県からの来訪者は、日帰り63.3% (38人)、1泊2日26.7% (16人)、2泊3日と3泊4日以上がともに1.7% (1人)の順であった。愛知他隣県からの来訪者は、日帰り45.5% (51人)、1泊2日41.1% (46人)、2泊3日11.6% (13人)、3泊4日以上は1.8% (2人)の順であった。その他の都道府

県からの来訪者は、日帰り15.6% (12人)、1泊2日24.7% (20人)、2泊3日45.5% (35人)、3泊4日以上10.4% (8人)の順であった。

宿泊を伴う来訪者は、その他81.9% (63人)、愛知他54.5% (61人)、長野県30.0% (16人)で、長野県から居住地が遠くなるにつれて宿泊をする比率が高くなり、宿泊数も多くなる。また2泊以上の来訪者を単純集計した結果は、2012年10月の調査では6.6% (15人/227人)²⁾、2013年10月の調査では5.8% (9人/155人)³⁾であったが、今回の調査では24.1% (60人/249人)と17%以上増加している。これは、調査した時期の違い(前々回および前回は10月末で今回は7月末)による可能性が大きいと思われる。

宿泊を伴う来訪者を対象に旅行日程の何日目かを尋ねた結果を図4に示す。長野県からの来訪

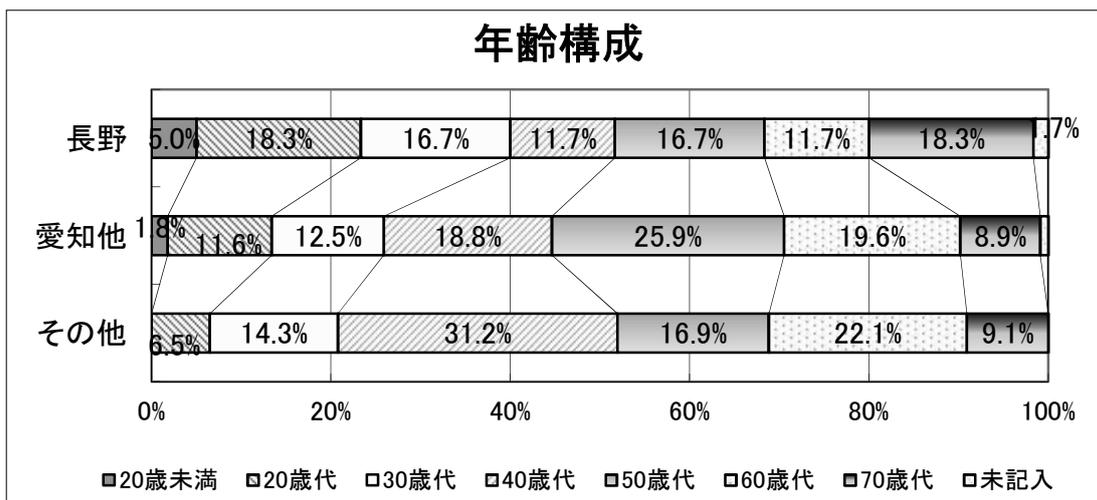


図2. 来訪者の年齢層

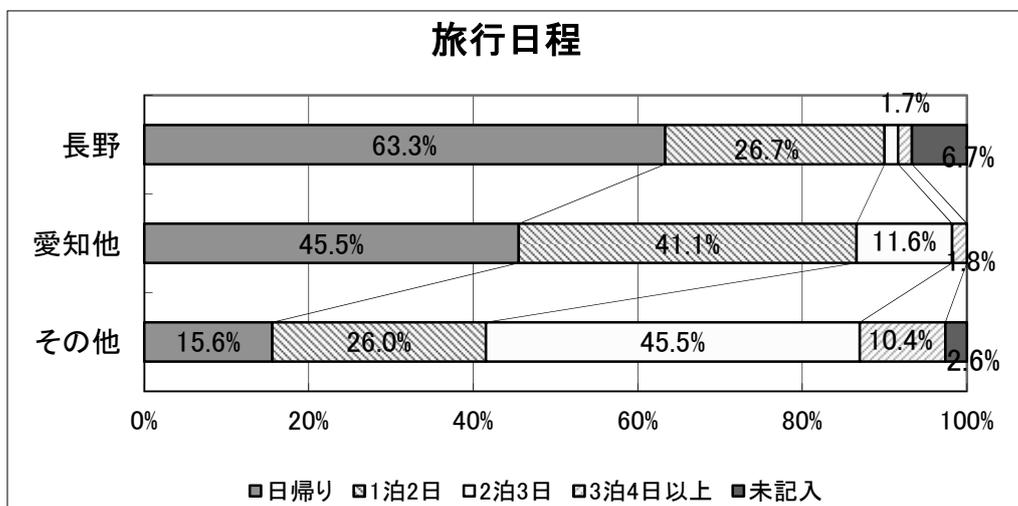


図3. 来訪者の旅行日程

者（18人）は、1日目16.7%（3人）、2日目38.9%（7人）、3日目5.6%（1人）、未記入38.9%（7人）であった。愛知他隣県からの来訪者（61人）は、1泊目23.0%（14人）、2日目49.2%（30人）、3日目1.6%（1人）、未記入26.2%（16人）であった。

その他の都道府県からの来訪者（63人）は、1日目19.0%（12人）、2日目41.3%（26人）、3日目と4日目以上がともに3.26%（2人）、未記入33.3%（21人）であった。

どの居住地域からの来訪者も7月19日（土）から木曾地域を訪れている人が最も多く、7月20日（日）から訪れている人がそれに続いている。

1泊目の宿泊地に対する回答を図5に示す。

長野県からの来訪者（18人）は木曾町と木曾町以外がともに27.8%（5人）、未記入44.4%（8人）であった。愛知他隣県からの来訪者（61人）

は、木曾町39.3%（24人）、木曾町以外49.2%（30人）、未記入32.8%（20人）であった。その他の都道府県からの来訪者（63人）は、木曾町42.9%（27人）、木曾町以外27.0%（17人）、未記入30.2%（19人）であった。

愛知他からの来訪者は木曾町よりも木曾町以外に宿泊する比率が11ポイントほど高く、その他都道府県からの来訪者は木曾町に宿泊する比率の方が木曾町以外に宿泊する比率よりも16ポイントほど高くなっている。

長野県からの来訪者で主な立ち寄り先を記述された方は5人で、その一覧を表1aに示す。表中の丸印（○）は調査当日を表す。

愛知他隣県からの来訪者で、主な立ち寄り先を記述した方は31人で、その概要を表1bに示す。その他都道府県からの来訪者で主な立ち寄り先を記入した方は35人でその概要を表1cに示す。

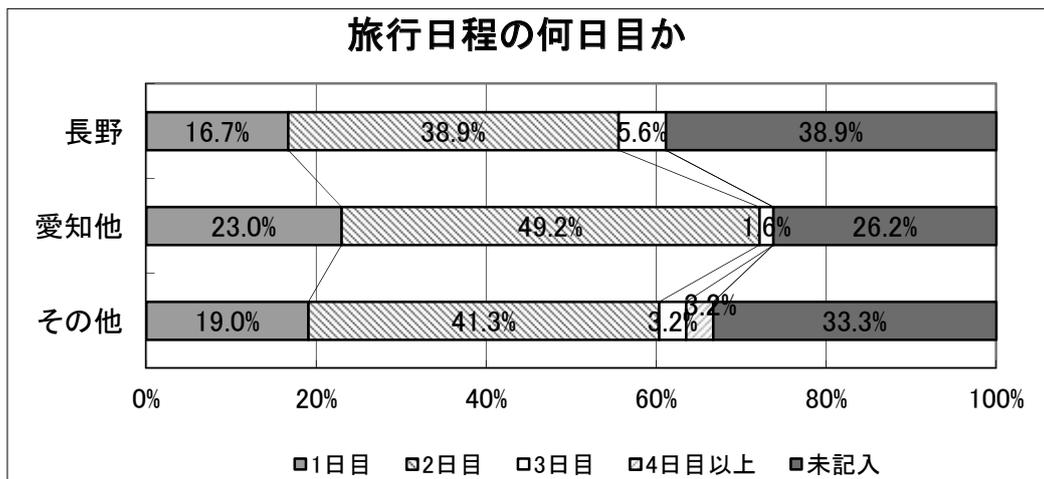


図4. 旅行日程の何日目か

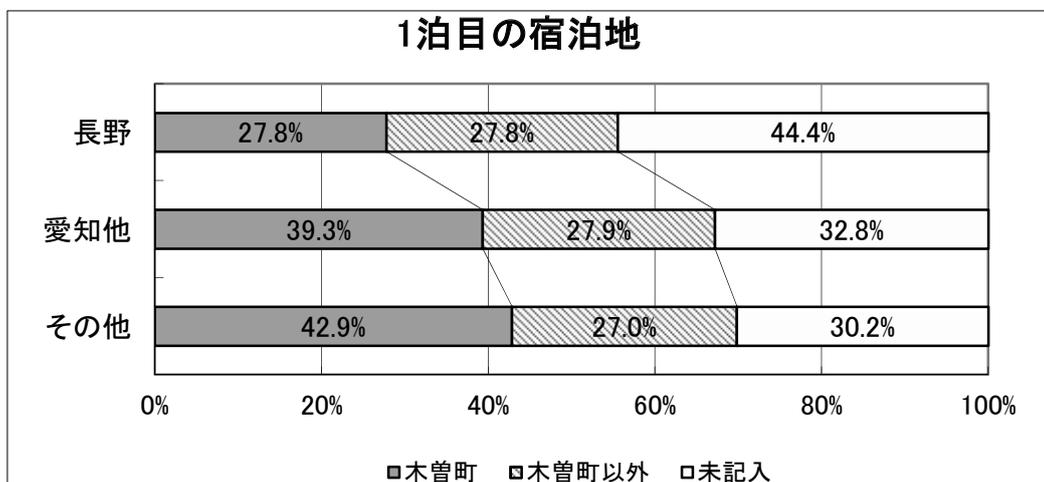


図5. 1泊目の宿泊地

表 1a. 長野県からの来訪者の主な立ち寄り先

| 年齢 | 日程 | 1日目 | 2日目 | 旅行相手 | 交通手段 |
|------|------|----------|------|----------|---------|
| 30歳代 | 日帰り | 馬籠宿 | | 家族（子連れ） | マイカー |
| 60歳代 | 日帰り | お蕎麦屋（松葉） | | 家族（大人のみ） | マイカー |
| 20歳代 | 1泊2日 | 木曾福島 | | 知人友人 | マイカー |
| 30歳代 | 1泊2日 | | 開田高原 | 家族（子連れ） | マイカー |
| 70歳代 | 1泊2日 | 開田 | 木曾駒 | 家族（子連れ） | その他（歩き） |

表 1b. 愛知他隣県からの来訪者の主な立ち寄り先

| 年齢 | 日程 | 1日目 | 2日目 | 3日目 | 旅行相手 | 交通手段 |
|-------|------|-----------------|-----------------------|------------|----------|------|
| 20歳未満 | 日帰り | 木曾馬の里 | | | 家族（子連れ） | マイカー |
| 50歳代 | 日帰り | 藪原 | | | 家族（大人のみ） | マイカー |
| 60歳代 | 日帰り | 寺からアイスクリーム工房 | | | 家族（子連れ） | マイカー |
| 20歳代 | 1泊2日 | 木曾駒宿 | ○藪原マラソン | | 家族（大人のみ） | マイカー |
| 20歳代 | 1泊2日 | ○松本 | 上高地 | | 家族（大人のみ） | マイカー |
| 20歳未満 | 1泊2日 | 木曾駒山荘 | ○ | | 家族（子連れ） | マイカー |
| 30歳代 | 1泊2日 | キャンプ | ○マラソン | | 家族（子連れ） | マイカー |
| 30歳代 | 1泊2日 | ブルーベリー狩り、やまゆり温泉 | ○木曾馬の里、彩葉館、アイス、やまゆり温泉 | | 家族（子連れ） | マイカー |
| 40歳代 | 1泊2日 | ○開田高原 | 飛騨 | | 家族（子連れ） | マイカー |
| 40歳代 | 1泊2日 | 移動 | 藪原高原ハーフマラソン | | 単独 | マイカー |
| 50歳代 | 1泊2日 | ○野麦峠 | 南木曾 | | 家族（子連れ） | マイカー |
| 50歳代 | 1泊2日 | 木曾駒山荘 | ○ | | 家族（子連れ） | マイカー |
| 50歳代 | 1泊2日 | | ○御嶽ロープウェイ | | 家族（大人のみ） | マイカー |
| 50歳代 | 1泊2日 | 下呂 | ○開田高原 | | 家族（大人のみ） | マイカー |
| 50歳代 | 1泊2日 | 木曾福島 | ○奈良井 | | 夫婦 | マイカー |
| 50歳代 | 1泊2日 | 諏訪湖 | ○ビーナスライン | | 単独 | バイク |
| 50歳代 | 1泊2日 | こだまの森 | ○こだまの森 | | 知人友人 | マイカー |
| 60歳代 | 1泊2日 | ○御嶽山 | 開田高原 | | 家族（子連れ） | マイカー |
| 60歳代 | 1泊2日 | ○赤沢休養林 | 開田高原 | | 夫婦 | マイカー |
| 60歳代 | 1泊2日 | 木曾町 | | | 家族（大人のみ） | マイカー |
| 60歳代 | 1泊2日 | 木曾町 | | | 夫婦 | マイカー |
| 70歳代 | 1泊2日 | 19号線 | | | 単独 | バイク |
| 70歳代 | 1泊2日 | 登山 | | | 知人友人 | 観光バス |
| 70歳代 | 1泊2日 | こだまの森 | ○ | | 夫婦 | マイカー |
| 70歳代 | 1泊2日 | | ○平沢 | | 夫婦 | マイカー |
| 70歳代 | 1泊2日 | 上松 | | | 家族（大人のみ） | マイカー |
| 20歳代 | 2泊3日 | 愛知、濁河ドライブ | ○濁河→佐久郡ドライブ | 佐久郡→愛知ドライブ | 夫婦 | マイカー |
| 30歳代 | 2泊3日 | 木曾 | | | 家族（子連れ） | マイカー |
| 40歳代 | 2泊3日 | なし | ○開田高原 | 未定 | 家族（子連れ） | マイカー |
| 50歳代 | 2泊3日 | 自宅よりここまで | ○藪原、奈良井 | | 夫婦 | マイカー |
| 60歳代 | 2泊3日 | 畑 | | | 家族（大人のみ） | マイカー |

表 1c. その他都道府県からの来訪者の主な立ち寄り先

| 年齢 | 日程 | 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 旅行相手 | 交通手段 |
|------|------|----------|-----------------|------|------|----------|--------|
| 40歳代 | 日帰り | ブルーベリー狩り | | | | 家族(子連れ) | マイカー |
| 60歳代 | 日帰り | マラソン | | | | 家族(大人のみ) | マイカー |
| 30歳代 | 1泊2日 | 日和田高原 | ○ | | | 知人友人 | マイカー |
| 30歳代 | 1泊2日 | キャンプ | ○ | | | 知人友人 | マイカー |
| 30歳代 | 1泊2日 | ○木曾町 | 新穂高温泉 | | | カップル(未婚) | マイカー |
| 30歳代 | 1泊2日 | ○登山 | | | | 登山グループ | 観光バス |
| 40歳代 | 1泊2日 | 奥飛騨→乗鞍 | ○乗鞍→木曾→大阪 | | | 家族(大人のみ) | マイカー |
| 40歳代 | 1泊2日 | 赤沢自然休養林 | ○木曾開田高原 | | | 夫婦 | マイカー |
| 50歳代 | 1泊2日 | ○木曾 | 岐阜 | | | 夫婦 | マイカー |
| 50歳代 | 1泊2日 | ○御嶽山 | | | | ツアー団体 | 観光バス |
| 60歳代 | 1泊2日 | 実家 | ○開田高原 | | | 家族(子連れ) | マイカー |
| 60歳代 | 1泊2日 | ○駒ヶ根 | | | | 家族(子連れ) | 鉄道(JR) |
| 60歳代 | 1泊2日 | ○山登り | 山登り | | | ツアー団体 | 観光バス |
| 20歳代 | 2泊3日 | 御嶽山 | ○白馬 | | | 知人友人 | マイカー |
| 20歳代 | 2泊3日 | 帰省 | | | | 夫婦 | マイカー |
| 30歳代 | 2泊3日 | 伊那の妻の実家 | ○藪原高原マラソン | 帰宅 | | 家族(子連れ) | マイカー |
| 30歳代 | 2泊3日 | キャンプ | ○ | | | 家族(子連れ) | マイカー |
| 40歳代 | 2泊3日 | 穂高 | 穂高 | ○ウナギ | | 知人友人 | マイカー |
| 40歳代 | 2泊3日 | 木曾福島 | ○御岳開田高原 | 阿寺溪谷 | | 知人友人 | マイカー |
| 40歳代 | 2泊3日 | 木曾福島 | ○やまゆり荘(温泉)、開田高原 | 阿寺溪谷 | | 知人友人 | マイカー |
| 40歳代 | 2泊3日 | 松本 | ○木曾町 | 未定 | | 家族(子連れ) | マイカー |
| 40歳代 | 2泊3日 | 木曾町 | ○木曾町 | | | 家族(子連れ) | マイカー |
| 40歳代 | 2泊3日 | 藪原高原マラソン | | | | 夫婦 | マイカー |
| 50歳代 | 2泊3日 | 木曾福島 | ○開田高原 | 阿寺溪谷 | | 知人友人 | マイカー |
| 50歳代 | 2泊3日 | 木曾福島 | ○開田高原 | 阿寺溪谷 | | 知人友人 | マイカー |
| 50歳代 | 2泊3日 | | ○藪原高原マラソン | | | 夫婦 | マイカー |
| 50歳代 | 2泊3日 | | ○木曾町 | | | 夫婦 | マイカー |
| 60歳代 | 2泊3日 | 滝 | 温泉 | ○ウナギ | | 知人友人 | マイカー |
| 60歳代 | 2泊3日 | 馬籠 | | 諏訪湖 | | 家族(大人のみ) | マイカー |
| 60歳代 | 2泊3日 | | ○ロープウェイ | | | 夫婦 | マイカー |
| 60歳代 | 2泊3日 | | 濁河温泉 | | | 夫婦 | マイカー |
| 50歳代 | 3泊以上 | 木曾 | 上高地 | 木曾 | | 家族(子連れ) | マイカー |
| 60歳代 | 3泊以上 | 移動 | 野尻・中山道 | 藪原 | 贅川 | 単独 | 鉄道(JR) |
| 60歳代 | 3泊以上 | 松本 | 大町 | 白馬 | ○木曾町 | 夫婦 | マイカー |
| 70歳代 | 3泊以上 | 駒ヶ根 | 乗鞍 | 蓼科 | 恵那山 | 家族(子連れ) | 自転車 |

3-3 現在地における滞留時間と旅行相手

来訪者の調査地点付近（木曾福島地区、木曾市場、開田高原及び日義木曾駒高原道の駅）における滞留（予定）時間を図6に示す。

滞留時間が1時間未満の来訪者は、長野県63.4%（38人）、愛知他隣県59%（66人）、その他の都道府県46.8%（36人）であった。滞留時間が2時間以上の来訪者は、長野県23.3%（14人）、愛知他隣県17.0%（19人）、その他都道府県32.5%（25人）であった。

滞留時間を全体（249人の単純集計）でみると、比率の高い方から、30分未満（29.7%、74人）、1時間未満（26.5%、66人）、1時間以上2時間未満（18.5%、46人）、4時間以上（10.8%、27人）、

2時間以上3時間未満（7.2%、18人）、3時間以上4時間未満（5.2%、13人）の順であった。

来訪者の旅行相手は全体（単純集計）では、家族（子連れ）が（23.7%、59人）と最も多く、知人友人が（19.3%、48人）、家族（大人のみ）と夫婦がともに（18.5%、46人）、単独が（9.6%、24人）、カップル（未婚）が（3.6%、9人）、その他が（2.4%、6人）、ツアー団体が（2.0%、5人）、職場団体が（0.4%、1人）であった。

居住地別に見てみると、（図7参照）、長野県からの来訪者の旅行相手は、夫婦、家族（大人のみ）が21.7%（13人）と最も多く、家族（子連れ）が18.3%（11人）、友人知人が15.0%（9人）、単独が13.3%（8人）、カップル（未婚）が6.7%

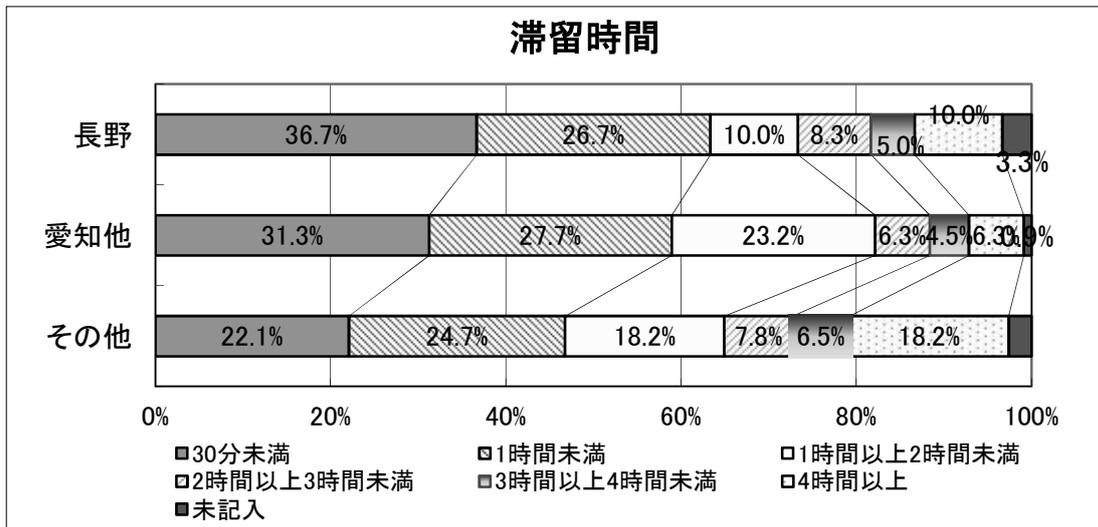


図6. 来訪者の滞留時間

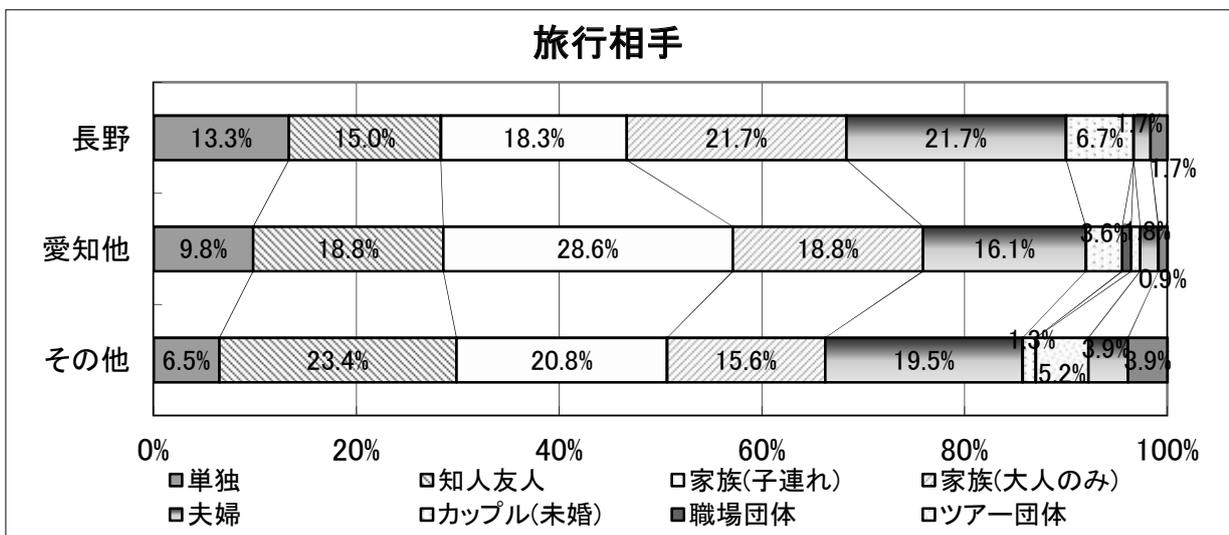


図7. 来訪者の旅行相手

(4人)、その他が1.7% (1人) の順であった。

愛知他隣県からの来訪者の旅行相手は、家族(子連れ)が28.6% (32人) と最も多く、家族(大人のみ)、知人友人が18.8% (21人)、夫婦が16.1% (18人)、単独が9.8% (11人)、カップル(未婚)が3.6% (4人)、その他が1.8% (2人)、職場団体、ツアー団体が0.9% (1人) の順であった。

その他都道府県からの来訪者の旅行相手は、友人知人が23.4% (18人) と最も多く、家族(子連れ)20.8% (16人)、夫婦19.5% (15人)、家族(大人のみ)15.6% (12人)、単独6.5% (5人)、ツアー団体5.2% (4人)、その他3.9% (3人) の順であった。

どの居住地域からも家族(子連れ、大人のみ)、知人友人や夫婦で訪れる割合が高くなっている。知人友人で訪れる人の割合が長野県から離れるにつれ高くなっている。

表2にはその他に記述されている内容を示す。どの項目も1件ずつであつが、マラソン仲間や登山グループ、大学のゼミなどのようにグループで訪れていることも分かった。

表2. その他の項目

| 長野県 | 愛知ほか | その他都道府県 |
|------|--------|--------------------------|
| グループ | マラソン仲間 | 仕事の途中 大学のゼミ 登山グループ |

3-4 主な交通手段と旅行ルート

来訪者の主な交通手段を単純集計(249人)すると、マイカー(80.3%、200人)、バイク(5.6%、14人)、自転車(5.2%、13人)、観光バス(3.2%、8人)、中央高速バス(1.6%、4人)、その他(1.2%、3人)、タクシー、鉄道(JR)(0.8%、2人)の順であった。

居住地別に見ると(図8参照)、長野県からの来訪者はマイカーが86.7%(52人)と最も多く、バイク、観光バス、その他(レンタカー、歩き)が3.3%(2人)、自転車、中央高速バスが1.7%(1人)の順であった。

愛知他隣県からの来訪者は、マイカー81.3%(91人)、バイク9.8%(11人)、自転車4.5%(5人)、観光バス1.8%(2人)、タクシー0.9%(1人)の順であった。

その他都道府県からの来訪者は、マイカー74.0%(57人)、自転車9.1%(7人)、観光バス5.2%(4人)、中央高速バス3.9%(3人)、鉄道(JR)0.8%(2人)、バイク、タクシー、その他(トラック)1.3%(1人)の順であった。

居住地が遠い来訪者ほど、自転車、観光バスを利用する割合が高くなっている。

マイカーと答えた全体(200人)を、調査地点別(表3参照)でみると、日義木曾駒高原道の駅57.0%(114人)、開田高原25.5%(51人)の順であった。

日義木曾駒高原道の駅は駐車場も広く車が停めやすいことや、地元のものやお土産等が数多く売

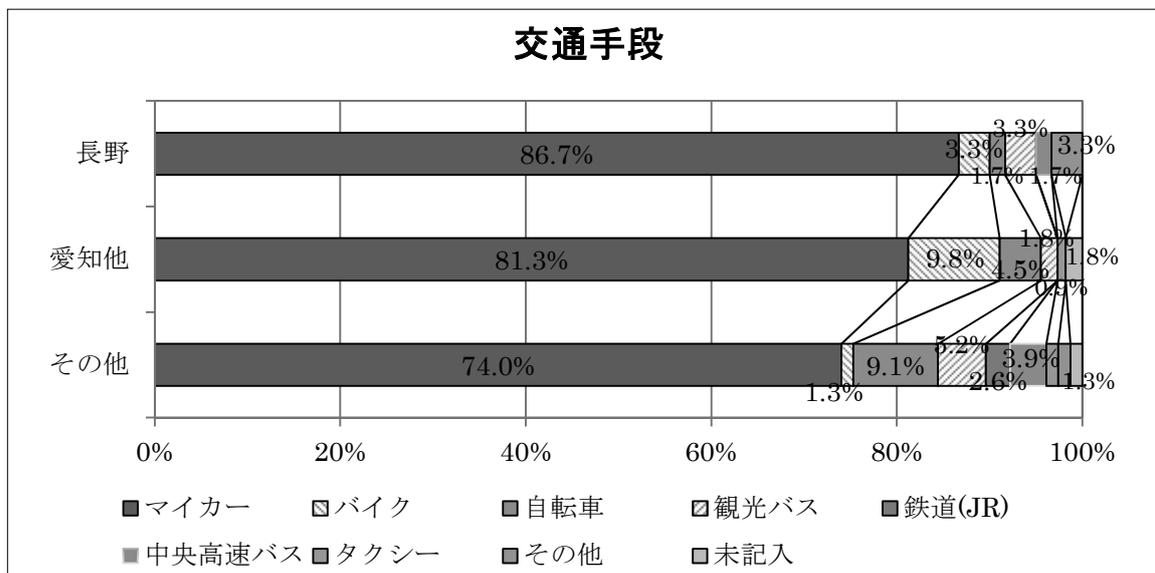


図8. 来訪者の主な交通手段 (居住地別)

っていることから来訪者のニーズに合った場所であるといえる。さらに、マイカー以外の割合も他の調査地点と比べて高く、利用しやすい立地であることや休憩所などで需要がある可能性がある。また、開田高原は車でないと訪れにくいという点と調査地点近辺に魅力あるからマイカーでの利用割合が高くなっているといえる。

木曾地域への旅行ルート（往路）を図9に示す。長野県は「塩尻方面から」が45.0%（27人）と最も多く、「伊那方面から」が21.7%（13人）、「中津川方面から」が13.3%（8人）、「高山方面から」が5.0%（3人）、「その他」1.7%（1人）の順であった。

愛知他隣県は「中津川方面から」が58.0%（65人）と最も多く、「伊那方面から」が9.8%（11人）、「塩尻方面から」が8.9%（10人）、「高山方面から」が7.1%（8人）、「その他」が3.6%（4人）の順であった。

その他の都道府県は「伊那方面から」が27.3%（21人）と最も多く、「中津川方面から」が26.0%（20人）、「塩尻方面から」が18.2%（14人）、「その他」が9.1%（7人）、「高山方面から」が6.5%（5人）の順であった。

旅行ルート（帰路）では、長野県は「塩尻方面へ」が36.7%（22人）と最も多く、「伊那方面へ」16.7%（10人）、「中津川方面へ」15.0%（9人）、「その他」3.3%（2人）、「高山方面へ」1.7%（1人）の順であった（図10参照）。

愛知他隣県は「中津川方面へ」が54.5%（61人）と最も多く、「高山方面へ」10.7%（12人）、「伊那方面へ」と「その他」がともに6.3%（7人）、「塩尻方面へ」5.4%（6人）の順であった。

その他の都道府県は「伊那方面へ」が23.4%（18人）と最も多く、「中津川方面へ」22.1%（17人）、「塩尻方面へ」18.2%（14人）、「その他」11.7%（9人）、「高山方面へ」6.5%（5人）の順であった。

往路と帰路の選び方が来訪者の居住地によって変化があるかどうか調べてみる。

長野県からの来訪者で往路について回答した方は51人ある。図11aに示すように塩尻方面から訪れた方（27人）のうち77.8%（21人）が帰路も塩尻方面へ、7.4%（2人）は中津川方面へ向かい、未記入は14.8%（4人）であった。中津川方面から訪れた方（8人）のうち、87.5%（7人）は帰路も中津川方面で、未記入12.5%（1人）で

表3. 調査地点別のマイカー利用率

| | 福島地区 | 道の駅日義 | 木曾市場 | 開田高原 | 計 |
|----|-------|-------|------|-------|--------|
| 割合 | 11.0% | 57.0% | 6.5% | 25.5% | 100.0% |
| 人数 | 22 | 114 | 13 | 51 | 200 |

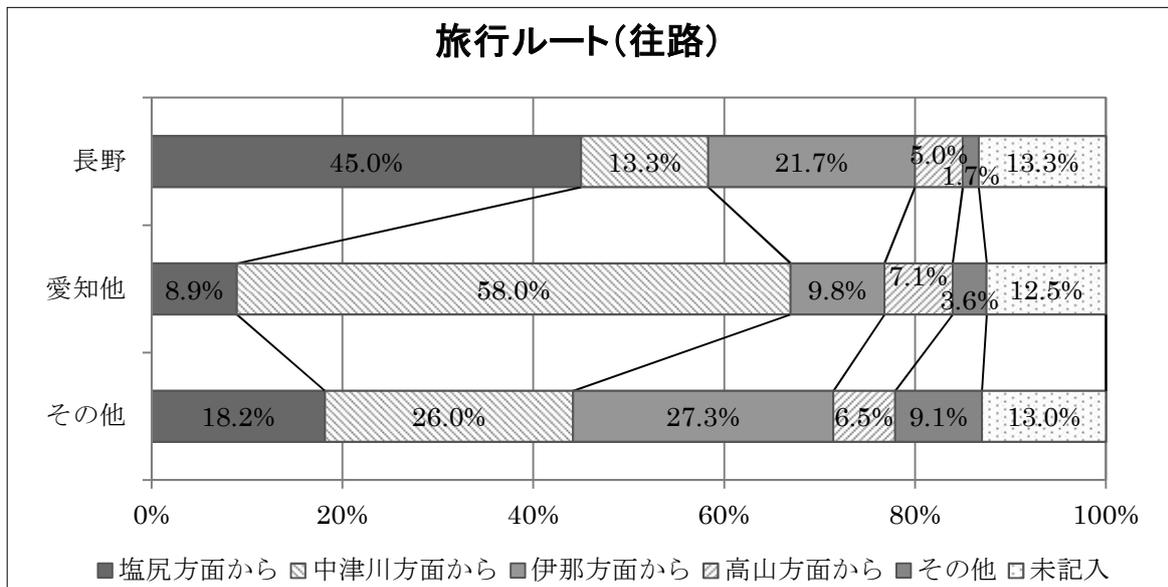


図9. 来訪者の旅行ルート（往路）

あった。伊那方面から訪れた方（13人）のうち76.9%（10人）が帰路も伊那方面へ向かい、未記入は23.1%（3人）であった。高山から訪れた方（3人）のうち、1人は塩尻方面へ、1人は高山方面へ向かい、残りの1人は未記入であった。

愛知他隣県からの来訪者で往路に回答した方は94人で、その帰路の内訳を図11bに示す。塩尻方面から訪れた方（10人）のうち60.0%（6人）は中津川方面へ、20.0%（2人）は帰路も塩尻方面へ向かい、未記入は20.0%（2人）であった。中津川方面から訪れた方（65人）のうち、帰路も中津川方面へ67.7%（44人）、高山方面へ7.7%（5人）、塩尻方面へ6.2%（4人）、伊那

方面へ4.6%（3人）の来訪者が向かい、未記入は13.8%（9人）であった。伊那方面から訪れた方（11人）のうち、中津川方面へ36.4%（4人）、帰路も伊那方面へ36.4%（4人）、高山方面へ9.1%（1人）の来訪者が向かい、未記入は18.2%（2人）であった。高山から訪れた方（8人）のうち、高山方面へ62.5%（5人）、塩尻方面へ37.5%（3人）の来訪者が向かった。

その他都道府県からの来訪者で往路に回答した方（60人）の帰路の内訳を図11cに示す。

塩尻方面から訪れた方が14人であり、そのうち塩尻方面へ64.3%（9人）、中津川方面へ14.3%（2人）、伊那方面へ7.1%（1人）の来訪者が向か

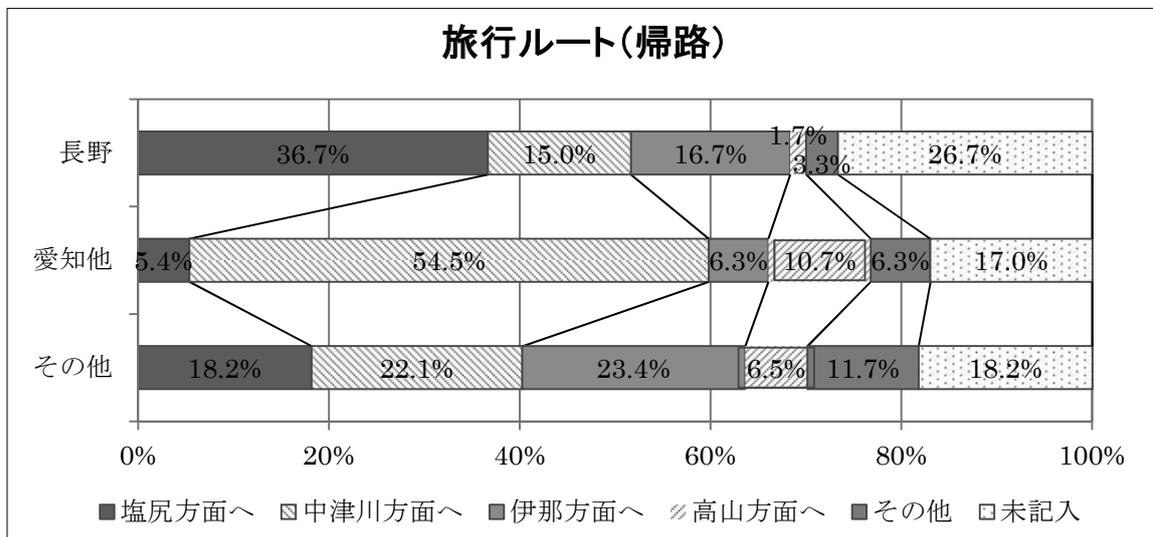


図10. 来訪者の旅行ルート（帰路）

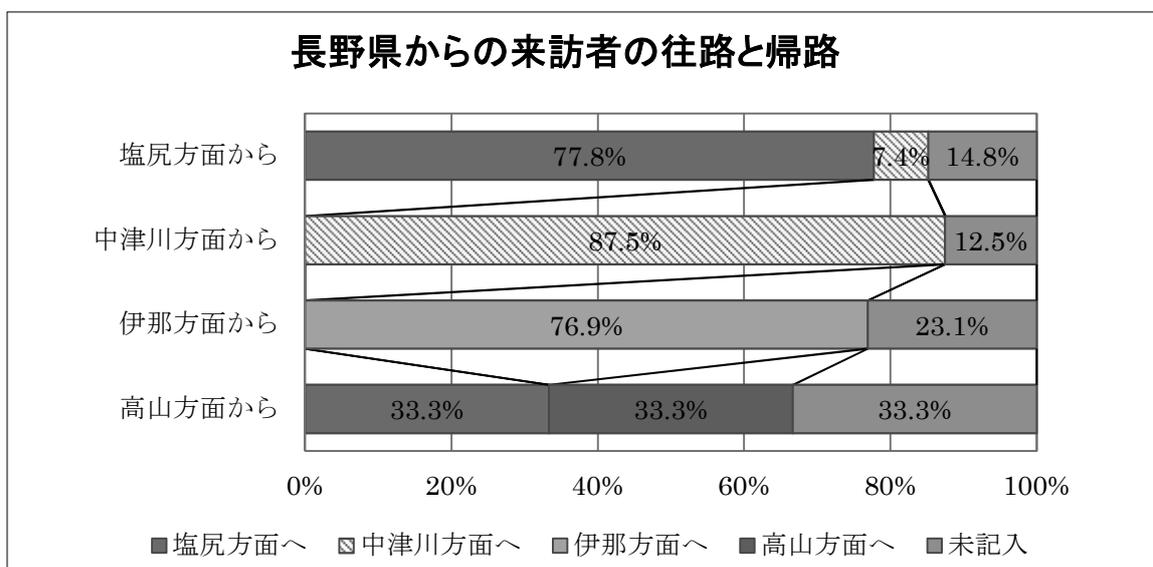


図11a. 長野県からの来訪者の往路と帰路

い、未記入 14.3%（2人）であった。中津川方面から訪れた方が20人であり、そのうち中津川方面へ55.0%（11人）、塩尻方面と伊那方面がともに15.0%（3人）、高山方面へ5.0%（1人）の来訪者が向かい、未記入は10.0%（2人）であった。伊那方面から訪れた方が21人であり、そのうち66.7%（14人）が伊那方面へ、塩尻方面、中津川方面と高山方面がともに4.8%（1人）の来訪者が向かい、19.0%（4人）が無回答であった。高山方面から訪れた方が8人であり、高山方面へ60.0%（5人）、中津川方面へ40.0%（3人）の来訪者人が帰路をとっていることがわかる。

3-5 現在地への来訪頻度と来訪目的

来訪者の現在地（木曾福島地区、開田高原、日義木曾駒高原道の駅または木曾市場）への来訪頻度を図12に示す。長野県からの来訪者は、10回以上38.3%（23人）が最も多く、3～5回26.7%（16人）、2回目20.0%（12人）、はじめて11.7%（7人）、6～9回1.7%（1人）の順であった。

愛知他隣県からの来訪者は、10回以上31.3%（35人）が最も多く、3～5回24.1%（27人）、はじめて18.8%（21人）、2回目12.5%（14人）、6～9回7.1%（8人）の順であった。

その他の都道府県からの来訪者は、はじめて40.3%（31人）が最も多く、3～5回20.8%（16人）、10回以上16.9%（13人）、2回13.0%（10

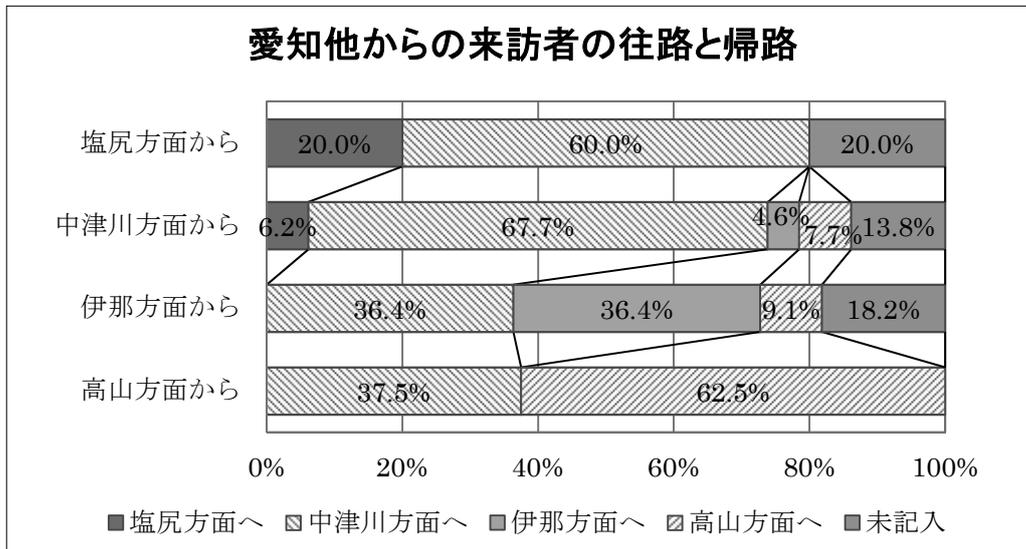


図 11b. 愛知他隣県からの来訪者の往路と帰路

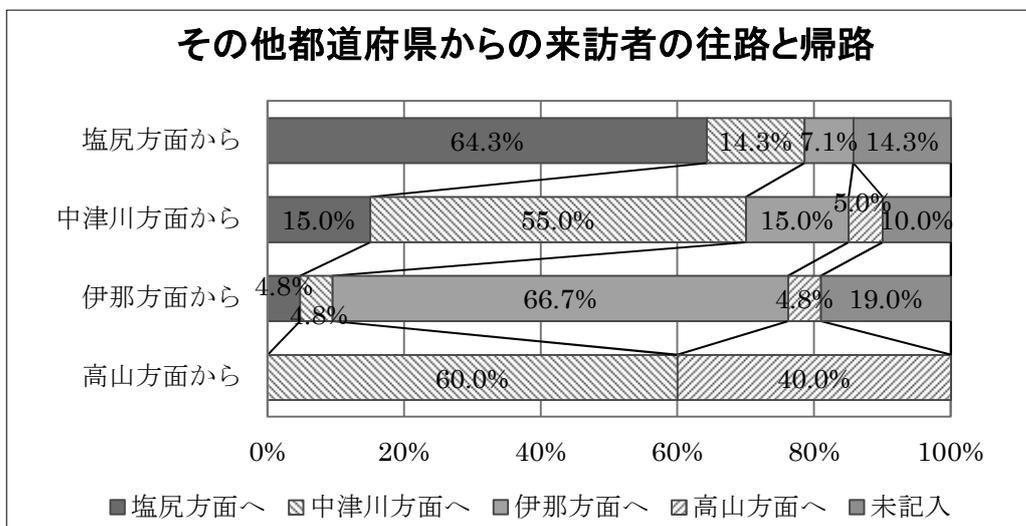


図 11c. その他都道府県からの来訪者の往路と帰路

人)、6~9回 3.9% (3人) の順であった。

長野県内と愛知他隣県からは10回以上訪れている来訪者の割合が最も高い。3回以上の来訪者をリピータと呼ぶことにすると、長野県からのリピータは66.7% (40人/60人)、愛知他隣県からのリピータは62.5% (84人/112人)、その他の都道府県からのリピータは41.6% (32人/77人) となっている。

現在地(木曾福島地区、開田高原、日義木曾駒高原道の駅または木曾市場)を訪れた目的(3つまで選択)は全体(249人)で見ると、ドライブが(30.9%、77人)が最も多く、その他(26.5%、66人)、自然の風景(23.7%、59人)、温泉(足湯を含む)(21.7%、54人)、飲食(9.6%、24人)、産地直売品・おみやげ(7.2%、18人)、登山(6.0%、15人)、木曾馬牧場(5.6%、14人)、宿場ウォーク(4.4%、11人)、キャンプ(4.0%、10人)、トレッキング(3.6%、9人)、溪流釣り(2.4%、6人)の順であった。

居住地別に見てみると(図13)、長野県からの来訪者は、ドライブが23.3% (14人)と最も多く、自然の風景21.7% (13人)、その他18.3% (11人)、産地直売品・おみやげ15.0% (9人)、温泉(足湯を含む)15.0% (9人)、飲食13.3% (8人)、木曾馬牧場10.0% (6人)、宿場ウォーク8.3% (5人)、トレッキング6.7% (4人)、溪流釣り3.3% (2人)、登山3.3% (2人)の順であった。

愛知他隣県からの来訪者は、ドライブが37.5% (42人)と最も多く、その他3.04% (34人)、

温泉(足湯を含む)21.4% (24人)、自然の風景20.5% (23人)、飲食8.0% (9人)、木曾馬牧場4.5% (5人)、登山4.5% (5人)、キャンプ3.6% (4人)、産地直売品・おみやげ3.6% (4人)、宿場ウォーク1.8% (2人)、溪流釣り1.8% (2人)の順であった。

その他の都道府県からの来訪者は、自然の風景が29.9% (23人)と最も多く、ドライブ27.3% (21人)、温泉(足湯を含む)27.3% (21人)、その他27.3% (21人)、登山10.4% (8人)、飲食9.1% (7人)、キャンプ7.8% (6人)、トレッキング6.5% (5人)、産地直売品・おみやげ6.5% (5人)、宿場ウォーク5.2% (4人)、木曾馬牧場3.9% (3人)、溪流釣り2.6% (2人)の順であった。

前回の調査と比べてみても、大きな割合を占めているものは、自然の風景、ドライブ、温泉(足湯を含む)とあまり変動がないが、今回はその他の割合も高くなっている。その他に記述された目的を表4に示す。調査当日に開催された「蕨原マラソン大会に参加する」がどの居住地でも最も多くなっている。

全体(単純集計)で見ても、ドライブ、自然の風景、温泉(足湯を含む)の割合が高くなっていることから、リフレッシュや気分転換で訪れていることやゆっくり過ごせる環境が整っていることがわかる。

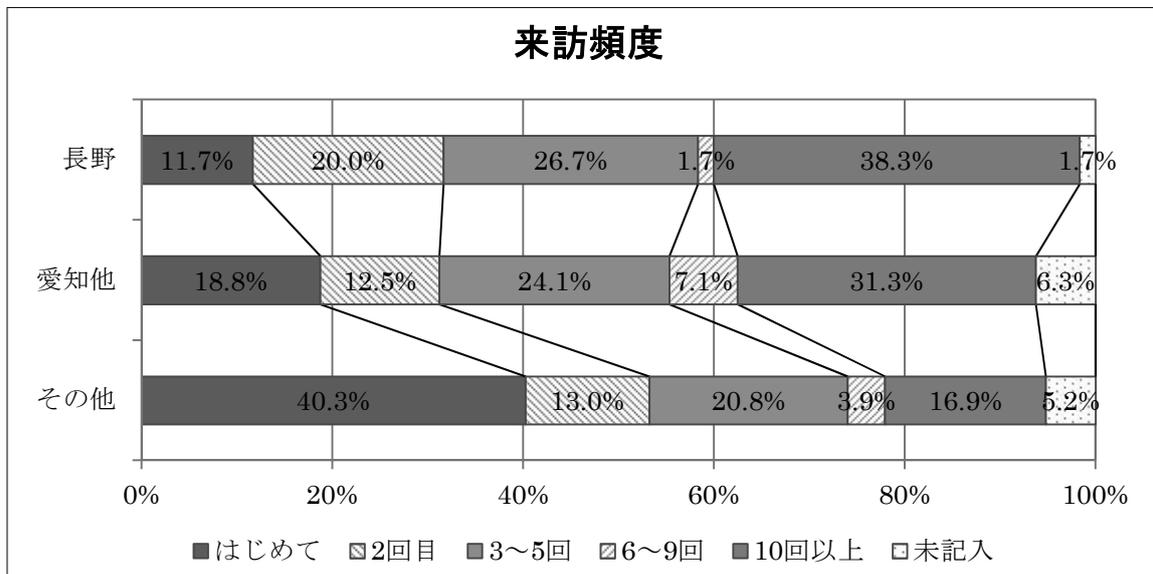


図12. 木曾町への来訪頻度

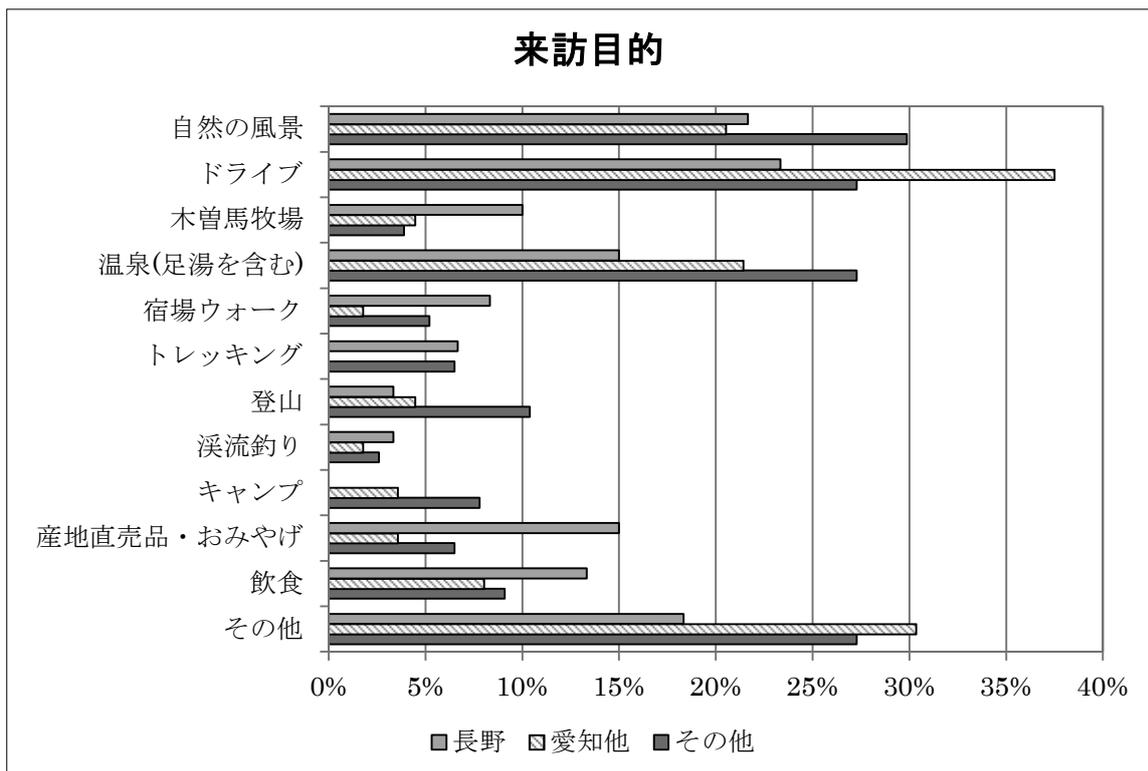


図 13. 木曾を訪れた目的

表 4. その他の目的の内訳

| 長野県 | | 愛知他 | | その他都道府県 | |
|---------|----|----------------------|----|----------------|----|
| 品目 | 度数 | 品目 | 度数 | 品目 | 度数 |
| マラソン大会 | 2 | マラソン大会 | 15 | マラソン大会 | 7 |
| 栗を売る | 1 | リフレッシュ | 3 | 帰省 | 2 |
| 子供の家を訪問 | 1 | 帰省 | 2 | 犬の散歩 | 1 |
| 実家 | 1 | 遊び | 1 | 合宿 | 1 |
| 通り道 | 1 | 家族に会いに | 1 | 気まぐれ | 1 |
| 野菜作り | 1 | 仕事 | 1 | 休憩中 | 1 |
| 友人に会うため | 1 | ツーリング | 1 | 写真、景色がいい | 1 |
| | | 手伝い | 1 | ゼミ活動 | 1 |
| | | 墓参り | 1 | タートルネック | 1 |
| | | 畑 | 1 | 太鼓の合宿 | 1 |
| | | ブルーベリー狩り | 1 | 友達にリフレッシュに誘われた | 1 |
| | | 別荘 | 1 | ブルーベリー狩り | 1 |
| | | 道の駅めぐり | 1 | | |
| | | リフレッシュ、道、19号の景色を楽しみに | 1 | | |

3-6 訪れた、または訪れる予定の場所

今回の旅行で訪れた場所、または訪れる予定の場所（5つまで選択）に対する全体（249人）の集計結果を表5に示す。

上位に注目してみると、開田高原（久蔵峠展望台を含む）（16.9%、42人）に最も多くの方が訪れている。第3位にやぶはら高原（12.0%、30人）、第6位に木曾馬の里（9.6%、24人）が入っていることから、『旅行相手』で最も多かった家族（子連れ）で楽しめる場所に人気が集まったことがわかる。

第2位は奈良井宿（15.7%、39人）であった。『年齢』で40～50歳代の来訪者が多かったことから、情緒溢れる街並み、そこで買える食べ物、漆器などを求めて訪れていることがわかる。

第4位日義・木曾駒高原道の駅（10.8%、27人）、第5位道の駅木曾福島（10.4%、26人）は調査地点でもあるが、産地直売品、その土地でしか買えないお土産などを求める来訪者が多く訪れていることを覗かせる。

第8位やまゆり荘（8.4%、21人）には温泉と飲食（いwana料理など）を求めて、第9位御嶽山、寝覚の床（6.8%、17人）には自然の景色を求めて訪れているのであろう。

居住地別に訪れた場所、または訪れる予定の場所を集計した結果を図14に示す。長野県からの来訪者は、奈良井宿と開田高原（久蔵峠展望台を含む）がともに15.0%（9人）と最も多く、日義・木曾駒高原道の駅が11.7%（7人）、藪原宿10.0%（6人）、やぶはら高原、寝覚の床8.3%（5人）の順であった。街並みや自然の風景、地元の食材を求めていることがわかる。

愛知他隣県からの来訪者は、開田高原（久蔵峠展望台を含む）が19.6%（22人）と最も多く、やぶはら高原が13.4%（15人）、道の駅木曾福島が12.5%（14人）、その他が11.6%（13人）、奈良井宿、木曾馬の里、やまゆり荘が10.7%（12人）の順であった。その他には、「トロッコ」、「ブルーベリー狩り」、「高山」、「松本城」、「温泉」などが挙げられていた。他の居住地域と比べてみても、開田高原（久蔵峠展望台を含む）へ訪れる割合が高い。家族（子連れ）での来訪が多かったため、家族で遊べる場を求めていた可能性がある。

その他の都道府県からの来訪者は、奈良井宿が23.4%（18人）と最も多く、開田高原（久蔵峠展望台を含む）が14.3%（11人）、やぶはら高原と日義・木曾駒高原道の駅がともに13.0%（10人）、

表5. 訪れた、訪れる場所（全体）

| 順位 | 項目 | 人数 | 割合 | 順位 | 項目 | 人数 | 割合 |
|----|-----------------|----|-------|----|---------------|-----|--------|
| 1 | 開田高原(久蔵峠展望台を含む) | 42 | 16.9% | 18 | 山村代官屋敷 | 11 | 4.4% |
| 2 | 奈良井宿 | 39 | 15.7% | 18 | 興禅寺 | 11 | 4.4% |
| 3 | やぶはら高原 | 30 | 12.0% | 20 | 道の駅大桑(木楽舎) | 10 | 4.0% |
| 4 | 日義・木曾駒高原道の駅 | 27 | 10.8% | 21 | 道の駅三岳 | 9 | 3.6% |
| 5 | 道の駅木曾福島 | 26 | 10.4% | 21 | 赤沢自然休養林 | 9 | 3.6% |
| 6 | 木曾馬の里 | 24 | 9.6% | 23 | 彩葉館 | 6 | 2.4% |
| 7 | その他 | 22 | 8.8% | 24 | 平沢漆器街 | 5 | 2.0% |
| 8 | やまゆり荘 | 21 | 8.4% | 24 | 上の段の街並み | 5 | 2.0% |
| 9 | 御嶽山 | 17 | 6.8% | 24 | 御嶽神社 | 5 | 2.0% |
| 10 | 寝覚の床 | 17 | 6.8% | 27 | フォレスパ木曾 | 4 | 1.6% |
| 11 | 福島関所 | 16 | 6.4% | 28 | 鳥居峠 | 3 | 1.2% |
| 11 | 木曾駒高原 | 16 | 6.4% | 28 | 義仲館 | 3 | 1.2% |
| 11 | 御岳ロープウェイ | 16 | 6.4% | 28 | ふるさと体験館きそふくしま | 3 | 1.2% |
| 14 | 木曾暮らしの工芸館 | 15 | 6.0% | 31 | 桃介橋 | 2 | 0.8% |
| 15 | 妻籠宿 | 14 | 5.6% | 32 | 油木美林 | 1 | 0.4% |
| 16 | 馬籠宿(藤村記念館) | 14 | 5.6% | | 合計 | 456 | 183.1% |
| 17 | 藪原宿 | 13 | 5.2% | | | | |

福島関所、木曾馬の里、道の駅木曾福島、御嶽山、御岳ロープウェイが11.7%（9人）の順であった。奈良井宿への来訪が他の県と比べ最も多く、福島関所、木曾馬の里、御岳ロープウェイなど昔の街並みや自然の風景を特に求め来訪していることがわかる。

3-7 情報収集の方法と求める地域情報

来訪者の現在地（木曾福島地区、木曾市場、開田高原及び日義木曾駒高原道の駅）に関する情報収集の方法（3つまで選択）を、全体（249人の単純集計）で見ると、以前に来た（26.5%、66人）が最も多く、ここではじめて（16.5%、41人）、観光パンフ（12.0%、30人）、インターネット（11.6%、29人）、道沿いの看板（10.4%、26

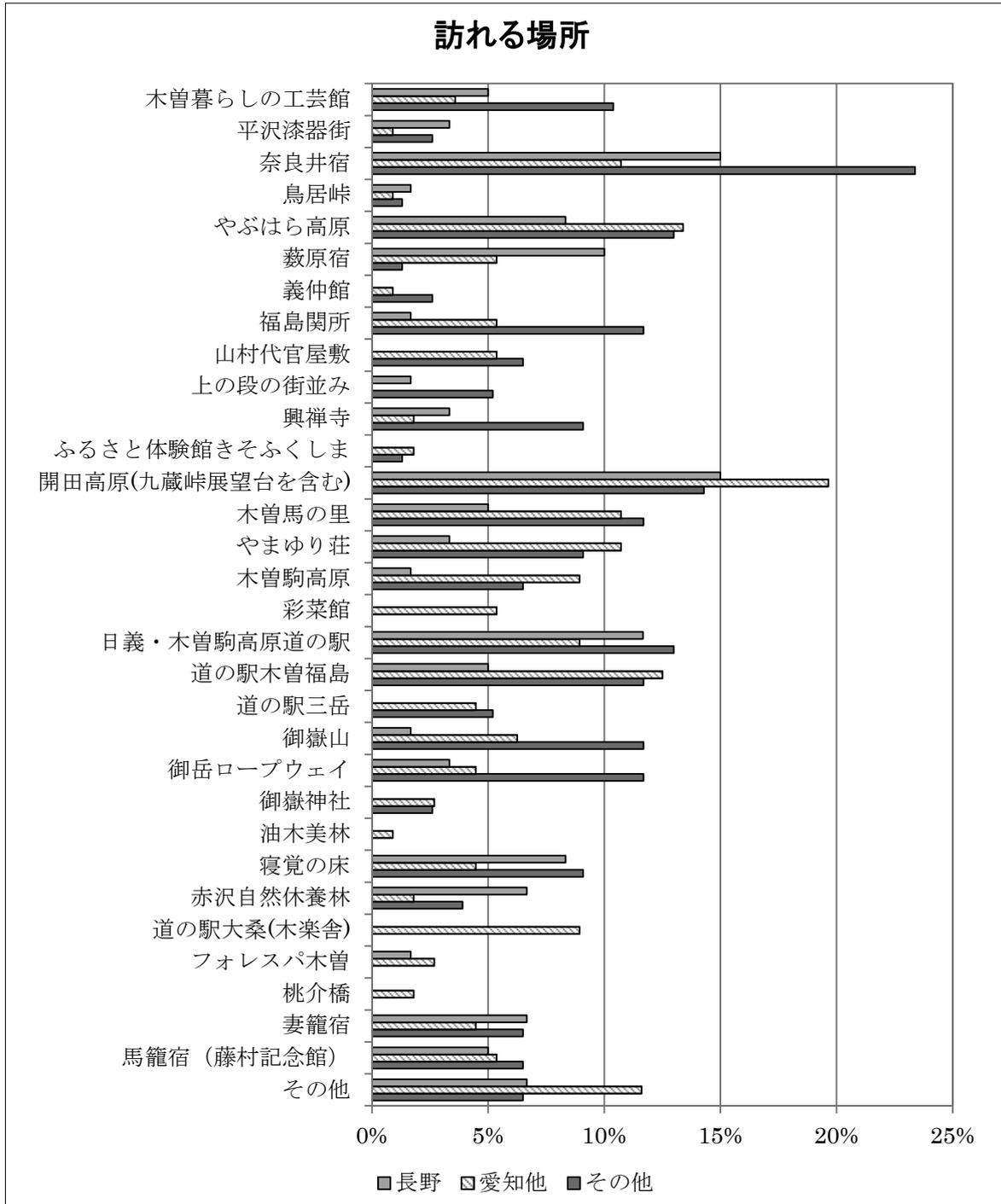


図 14. 訪れた場所、または訪れる予定の場所（都道府県別）

人)、ガイドブック(10.4%、26人)、その他(6.8%、17人)、口コミ(5.2%、13人)、テレビ・ラジオ(0.8%、2人)、新聞・チラシ(0.8%、2人)の順であった。

居住地別に情報収集の方法を集計した結果を図15に示す。長野県からの来訪者は、以前に来た38.3%(23人)が最も多く、ここではじめて11.7%(7人)、観光パンフ11.7%(7人)、道沿いの看板10.0%(6人)、ガイドブック8.3%(5人)、口コミ6.7%(4人)、インターネットとその他がともに5.0%(3人)、新聞・チラシとテレビ・インターネットがともに1.7%(1人)の順であった。

愛知他隣県からの来訪者は、以前に来た28.6%(32人)が最も多く、ここではじめて16.1%(18人)、道沿いの看板13.4%(15人)、インターネット13.4%(15人)、観光パンフ9.8%(11人)、ガイドブック8.0%(9人)、その他5.4%(6人)、口コミ4.5%(5人)、新聞・チラシ0.9%(1人)の順であった。

その他の都道府県からの来訪者は、ここではじめて20.8%(16人)が最も多く、ガイドブック5.6%(12人)、観光パンフ15.6%(12人)、インターネット14.3%(11人)、以前に来た14.3%(11人)、その他10.4%(8人)、道沿いの看板6.5

% (5人)、口コミ5.2%(4人)、テレビ・ラジオ1.3%(1人)の順であった。

長野県からは、以前から知っておりリピータとして訪れている方が多くいる(図12参照)。また観光パンフやガイドブックなどの情報冊子で情報を得ていることがわかる。

愛知他隣県からは、以前に来たが多くなっていることから、ここでもリピータの方が多くいることがわかる。初めて訪れて情報を集めていたり道沿いの看板を見て情報収集を行っていたりしていることがわかる。

その他の都道府県からは、初めて訪れて情報を得ている方が多くいる。また他県と比べてもガイドブックや観光パンフなどの情報冊子で情報を得ている方が多いこともわかる。

この地域に関するほしい情報(3つまで選択)を全体(249人)で見ると、食事の楽しめる場所(35.3%、88人)が最も多く、温泉施設(34.5%、86人)、季節のイベントや催し(24.1%、60人)、自然に触れあえる場所(23.3%、58人)、ドライブコース・道路(15.7%、39人)、農産物直売所(14.9%、37人)、必要ない(5.6%、14人)、その他(3.2%、8人)、空き家(住居)情報とわからないがともに(2.8%、7人)、地元民との交

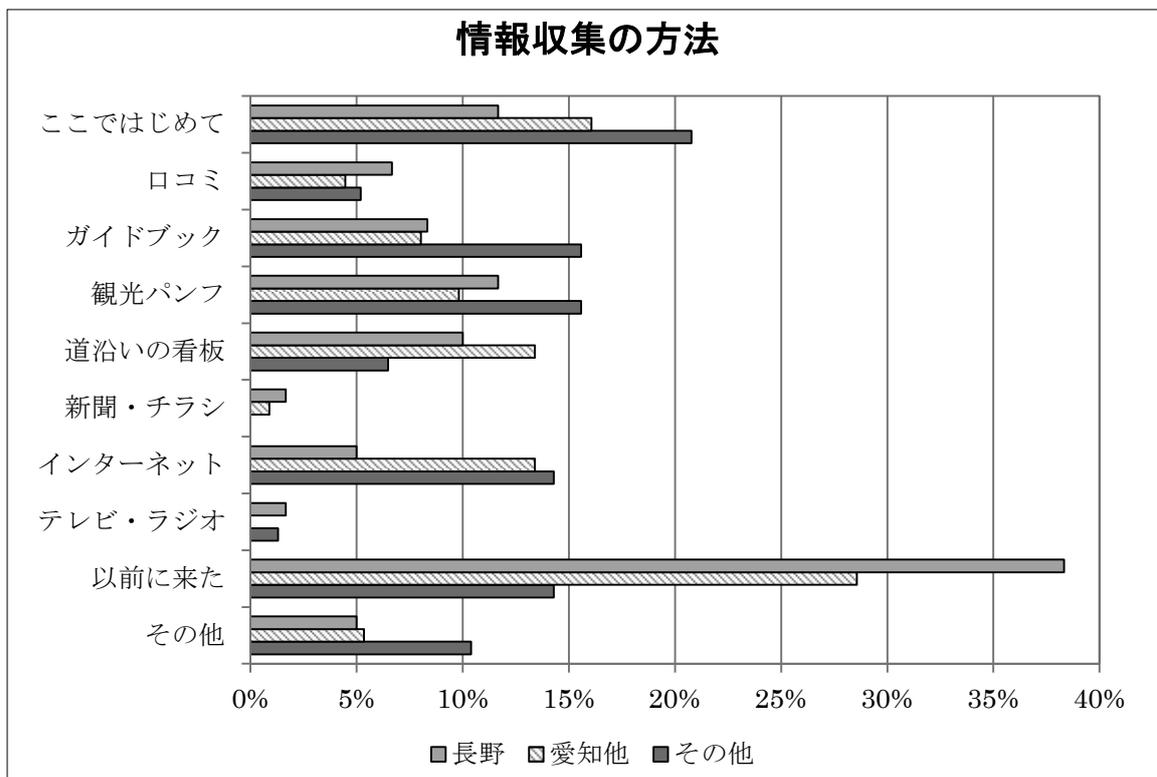


図15. 木曾町の情報収集の方法

流（2.4%、6人）の順であった。

この地域に関するほしい情報（3つまで選択）を居住地別に集計した結果を図16に示す。

長野県からの来訪者は、食事の楽しめる場所31.7%（19人）が最も多く、温泉施設と、季節のイベントや催しがともに28.3%（17人）、自然に触れあえる場所23.3%（14人）、ドライブコース・道路16.7%（10人）、農産物直売所15.0%（9人）、必要ない6.7%（4人）、地元民との交流3.3%（2人）、空き家（住居）情報、その他、わからないがいずれも1.7%（1人）の順であった。

愛知他隣県からの来訪者は、温泉施設35.7%（40人）が最も多く、食事の楽しめる場所33.9%（38人）、季節のイベントや催し23.2%（26人）、自然に触れあえる場所20.5%（23人）、ドライブコース・道路16.1%（18人）、農産物直売所14.3%（16人）、必要ない6.3%（7人）、わからない4.5%（5人）、空き家（住居）情報3.6%（4人）、その他2.7%（3人）、地元民との交流が1.8%（2人）の順であった。

その他の都道府県からの来訪者は、食事の楽しめる場所40.3%（31人）が最も多く、温泉施設37.7%（29人）、自然に触れあえる場所27.3%（21人）、季節のイベントや催し22.1%（17人）、

農産物直売所15.6%（12人）、ドライブコース・道路14.3%（11人）、その他5.2%（4人）、必要ない3.9%（3人）、地元民との交流および空き家（住居）情報がともに2.6%（2人）、わからない1.3%（1人）の順であった。

どの居住地域からの来訪者でも、温泉施設、食事の楽しめる場所の情報がほしいと回答している。前回の調査と比べてみても順位に変動がないことから、来訪者が（現地についてからも）最新の情報を得たい（確認したい）と思っていることがわかる。

3-8 旅行予算とお土産代

旅費と宿泊費を除く一人当たりの予算を図17に示す。図4の旅行日程のグラフからわかるように、長野県内からの来訪者、愛知他隣県からの来訪者、その他都道府県からの来訪者の順に宿泊を伴う割合が高くなっている。さらに、その他都道府県の方が愛知他隣県よりも連泊する比率が高い。これらの旅行日程を反映して、長野県内、愛知他隣県、その他都道府県の順に旅行予算が増加していると考えられる。

未記入を除いて有効回答（225）の金額の区間の中央値を用いて、来訪者の旅費と宿泊費を

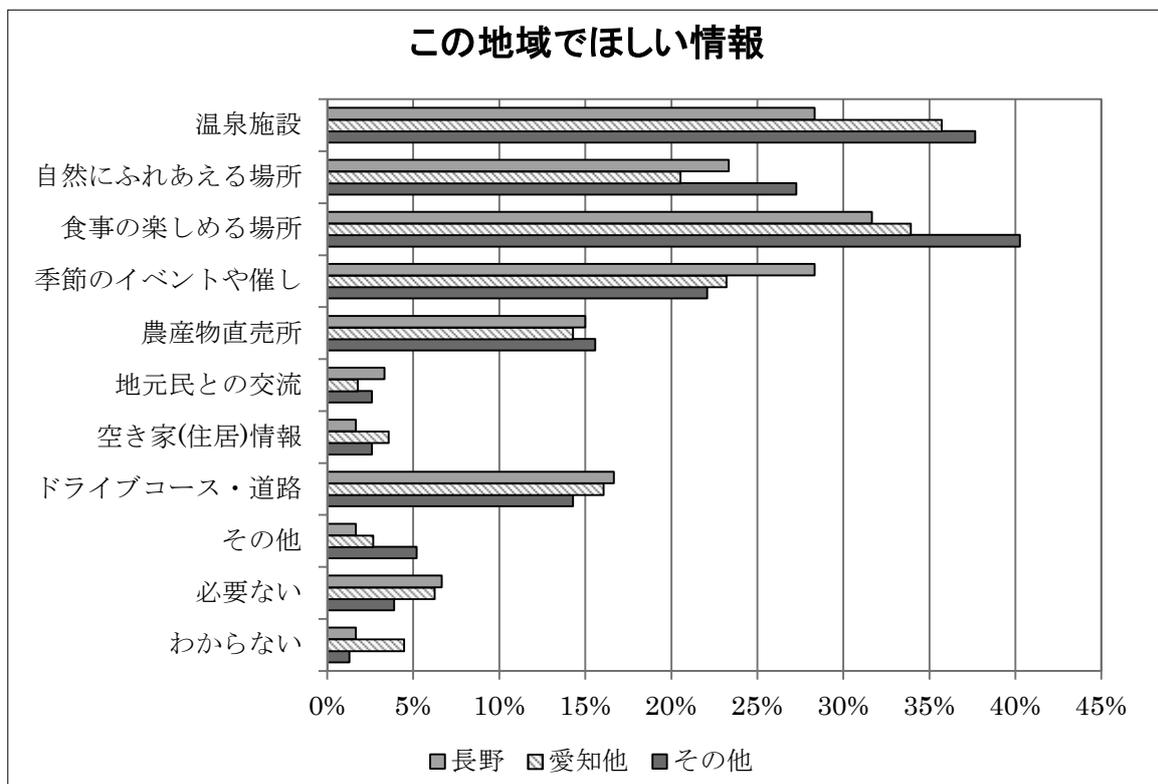


図16. この地域でほしい情報

除く一人当たりの予算（旅行予算）の平均値を求めてみる。例えば、5000円未満の区間の場合、その中央値は $(0+5,000) / 2 = 2,500$ （円）となる。5,000円以上1万円未満の区間では、 $(5,000+10,000) / 2 = 7,500$ （円）となる。2万円以上の区間では、中央値として30,000（25,000）（円）を用いた。

長野県からの来訪者（52人）の旅行予算の平均値は9,231円（8462円）、愛知他隣県からの来訪者（102人）の旅行予算の平均値は11,004円（10,172円）、その他都道府県からの来訪者（71人）の旅行予算の平均値は18,310円（16,127円）となる。全来訪者（225人）の旅行予算の平均値

は12,900円（11,656円）となる。

旅費と宿泊費を除く旅行の一人当たりの予算の中に含まれる、お土産代の集計結果を図18に示す。長野県内からの来訪者は、2千円未満36.7%（22人）、2千円以上4千円未満21.7%（13人）と未満が58.4%を占め、4千円以上は26.7%（16人）となっている。

愛知他隣県からの来訪者は、2千円未満34.8%（54人）、2千円以上4千円未満29.5%（50人）と4千円未満が64.3%を占め、4千円以上は26.9%（61人）であった。その他都道府県からの来訪者は、2千円未満19.5%（24人）、2千円以上4千円未満22.1%（22人）と4千円未満が41.6

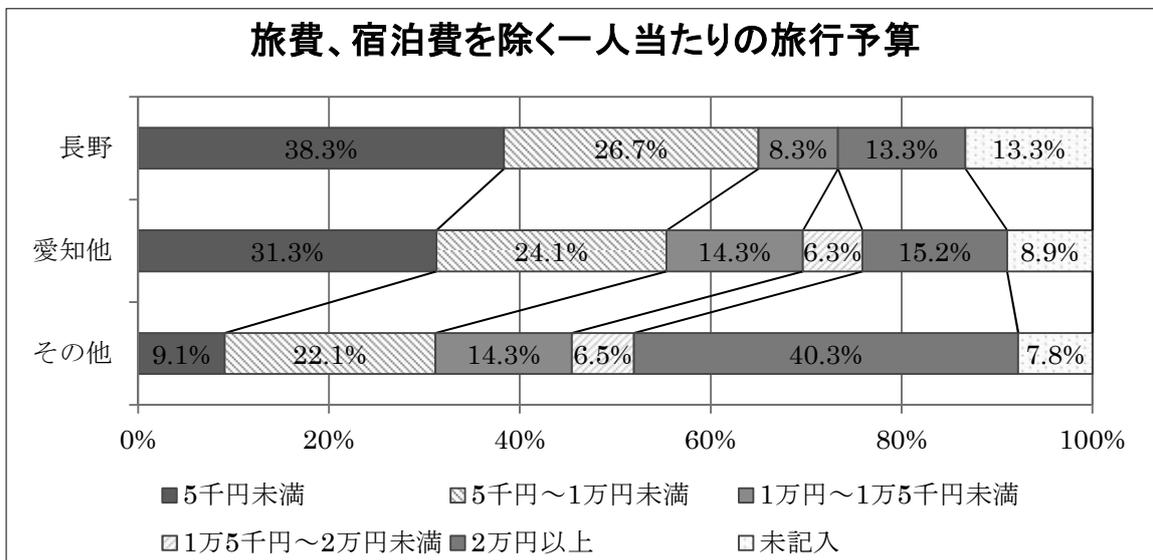


図17. 旅費、宿泊費を除いた旅行の予算

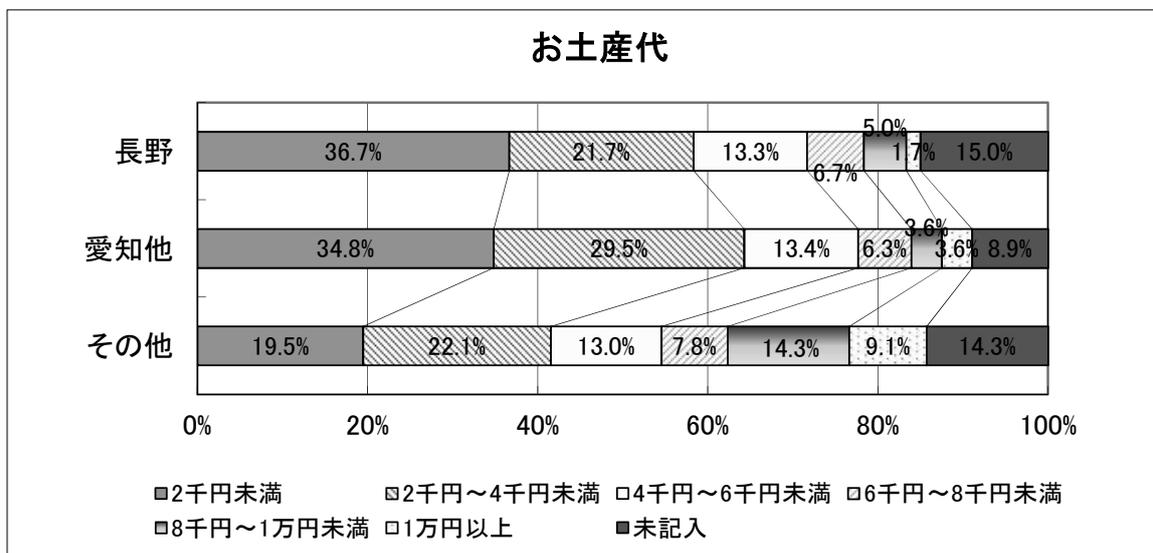


図18. お土産代

%を占め、4千円以上は%44.2（38人）であった。長野県外からの来訪者の方が県内からの来訪者よりもお土産代は多いようだ。

お土産代についても有効回答（219）の金額の区間の中央値を用いて、来訪者1人当たりが使うお土産代の平均値を求めてみる。ただし、1万円以上の区間の中央値としては15,000円（12,500円）を用いた。

長野県からの来訪者（51人）のお土産代の平均値は3,353円（3,304円）、愛知他隣県からの来訪者（102人）のお土産代の平均値は3,510円（3,412円）、その他都道府県からの来訪者（66人）のお土産代の平均値は5,485円（5,220円）となる。全来訪者（219人）のお土産代の平均値は4,069円（3,932円）となる。

表6. お土産として購入したもの

| 長野県 | | 愛知他 | | その他都道府県 | |
|---------|----|---------|----|----------|----|
| 品目 | 度数 | 品目 | 度数 | 品目 | 度数 |
| 野菜 | 8 | 野菜 | 11 | 菓子 | 9 |
| ほおば巻 | 3 | 酒 | 9 | そば | 8 |
| そば饅頭 | 2 | 菓子 | 6 | 酒 | 5 |
| 百草丸 | 2 | そば | 4 | 漬物 | 5 |
| イモ | 1 | ブルーベリー | 4 | 野菜 | 5 |
| おやき | 1 | 漬物 | 4 | ヨーグルト | 4 |
| 温泉まんじゅう | 1 | 果物 | 3 | ワイン | 3 |
| 菓子 | 1 | そば饅頭 | 3 | クッキー | 2 |
| 産地の特産品 | 1 | サブレ | 2 | ジャム | 2 |
| 地元産 | 1 | せんべい | 2 | 箸 | 2 |
| スイカ | 1 | トウモロコシ | 2 | 温かい羽織 | 1 |
| そば | 1 | バター | 2 | うずらの卵 | 1 |
| 竹関係 | 1 | リンゴ | 2 | 各地の名産 | 1 |
| 漬物 | 1 | ワイン | 2 | 木 | 1 |
| ブルーベリー | 1 | Tシャツ | 1 | 木曾菜漬物 | 1 |
| 山栗 | 1 | アイスクリーム | 1 | 果物 | 1 |
| ヨーグルト | 1 | 赤カブ | 1 | 黒にんにく | 1 |
| ワイン | 1 | おやき | 1 | 地ビール | 1 |
| | | カレーパン | 1 | スイカ | 1 |
| | | 川魚 | 1 | そばのかりんとう | 1 |
| | | 変わったもの | 1 | そば饅頭 | 1 |
| | | 木曾産のジャム | 1 | 食べ物 | 1 |
| | | キャベツ | 1 | はちみつ | 1 |
| | | クッキー | 1 | バルサミコ酢 | 1 |
| | | ケーキ | 1 | 百草丸 | 1 |
| | | ゴーフレット | 1 | ブルーベリー | 1 |
| | | 漆器 | 1 | 味噌 | 1 |
| | | 食材 | 1 | 民芸品 | 1 |
| | | すんき | 1 | リンゴジュース | 1 |
| | | 食べ物 | 1 | 山賊焼きのたれ | 1 |
| | | 椿油 | 1 | 農産物 | 1 |
| | | 野沢菜 | 1 | 野沢菜 | 1 |

3-9 お土産として購入したものと探しているもの
 木曾地域を訪れる観光客がどのようなものをお土産として求めているかを知るために、購入したお土産品とお土産としてどんなものを探しているかについて記述していただいた。購入したお土産品を表6に挙げる。愛知他2県は、表に入りきらなかった品目があり、箸、はちみつ、檜の小物、フルーツ、ほおば巻き、乾ししいたけ、ヨーグルト、わさび漬け、団子、畑の肉、檜の名技各1であった。

お土産として購入したものの中に、「野菜」、「そば」、「漬物」、「りんご」など地域の農産物、「蕎麦饅頭」「ほおば巻」、「おやき」等のお菓子類、「お箸」、「檜の小物」等の特産品、「御嶽百草丸」などが挙げられている。

お土産として探しているものを表7に挙げる。長野県は「そば」2人、「イモ」1人、「トウモロコシ」1人、「山菜」1人の順になっている。

愛知他隣県は、「菓子」4人、「トウモロコシ」4人、「野菜」4人、「地元の品」4人、「山菜」2

表7. お土産として探しているもの

| 長野県 | | 愛知他 | | その他都道府県 | |
|-----------|----|------------|----|----------|----|
| 品目 | 度数 | 品目 | 度数 | 品目 | 度数 |
| そば | 2 | 菓子 | 4 | 地元の名産品 | 7 |
| イモ | 1 | 地元の品 | 4 | 食べ物 | 3 |
| 山菜 | 1 | とうもろこし | 4 | 地酒 | 2 |
| 地元ならではのもの | 1 | 山菜 | 2 | とうもろこし | 2 |
| 地域の野菜 | 1 | 食べ物 | 2 | おいしいもの | 1 |
| とうもろこし | 1 | 野菜 | 2 | おかずになるもの | 1 |
| 名物 | 1 | 家で使えるもの | 1 | 花 | 1 |
| 野菜 | 1 | おいしいもの | 1 | キーホルダー | 1 |
| | | 気に関する名札 | 1 | 郷土の食べ物 | 1 |
| | | さくらんぼ | 1 | くるみ | 1 |
| | | 酒 | 1 | ご当地もの | 1 |
| | | 産直野菜 | 1 | ごま | 1 |
| | | 自然を感じられるもの | 1 | 酒類 | 1 |
| | | 地ビール | 1 | 自然食品 | 1 |
| | | 地元でとれたフルーツ | 1 | 地元の何か | 1 |
| | | 旬の野菜 | 1 | ジャム | 1 |
| | | 食品関係 | 1 | すんき | 1 |
| | | そば饅頭 | 1 | そば | 1 |
| | | 父へのプレゼント | 1 | 地域産 | 1 |
| | | 漬物 | 1 | チーズ | 1 |
| | | 特産物 | 1 | 長野限定のもの | 1 |
| | | 農産物 | 1 | 日持ちするもの | 1 |
| | | フルーツ | 1 | ブルーベリー | 1 |
| | | ブルーベリー | 1 | みそ | 1 |
| | | 饅頭 | 1 | 珍しいもの | 1 |
| | | 名産品 | 1 | 野菜 | 1 |
| | | 赤カブ | 1 | ヨーグルト | 1 |
| | | 桃 | 1 | リンゴ | 1 |
| | | | | ワイン | 1 |
| | | | | 木曾ヒノキのはし | 1 |

人、「酒」2人、「食べ物」2人の順になっている。

その他都道府県では、「郷土の食べ物」9人、「食べ物」5人、「酒」3人、「トウモロコシ」2人、「特産品」2人の順になっている。

いずれの地域からの来訪者も食べ物や酒などの特産品が多数挙げられていた。これらの表現で、表7に挙げられているものでよく知られていないもの、または、表7には含まれていない、〈木曾らしい何か〉を探し求めていることを表しているのかもしれない。

お土産品がどこで製造されたか（製造元）を調

べた上で購入するかの問いに対する集計結果を図19に示す。注意する（はい）と答えた人は、長野県では約28%、愛知他隣県では約23%、その他都道府県では約34%となっている。

製造元に注意するか（はい）またはしない（いいえ）の答えに対する理由を表8に示す。(2)と表示してある項目は同じ理由が2件あったことを示す。それ以外は1件ずつである。

3-10 おいしかったもの

木曾地域で飲食してみておいしかったもの（5

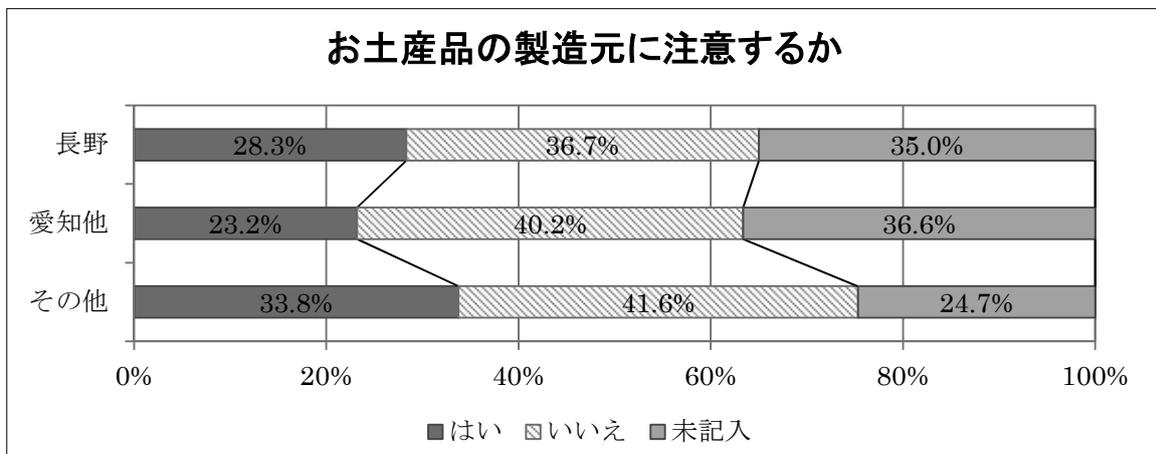


図 19. お土産品の製造元

表 8. 製造元に注意する（はい）、またはしない（いいえ）に対する理由

| はいの理由 | | |
|---|---|--|
| 長野県 | 愛知ほか | その他都道府県 |
| 安全性 (2) 米だから 地元 地元産のものかを調べます 地元のを食べたいので せっかくだから 地域の物を買う 中国産には騙されない | 開田高原産 国産にこだわりがあるから 地元産が素朴でいいから 地元産がほしいから 地元のを買いきたいから (2) 習慣で その土地のもので作られたものを買 入したい そば粉が50%以上入っているもの 地産を求めているから | 国産、地元のものにこだわる 産地のを買いきたい 地のものであるか見て購入 地場産品がほしい 地元のがいい 地元のが安心して買える せっかくなので地元のを買い たい できれば地元のを買い たいから なるべく地元のを |
| いいえの理由 | | |
| 長野県 | 愛知ほか | その他都道府県 |
| | こだわりがないから | あまり気にしない 気にしない 地元のものに信じているから わからないから |

つまで選択)を単純集計した結果は、第1位蕎麦(142人、57.0%)、第2位アイスクリーム(71人、28.5%)、第3位エゴマの五平餅(39人、15.7%)、第4位ブルーベリー(38人、15.3%)、第5位ほおば巻きとトウモロコシ(28人、11.2%)、第7位岩魚(17人、6.8%)、第8位その他と木曾牛コロッケ(16人、6.4%)、第10位山菜(14人、5.6%)の順であった。

居住地別に集計した結果を図20に示す。長野県は、第1位蕎麦51.7%(31人)、第2位アイスクリームとほおば巻き21.7%(13人)、第4位エゴマの五平餅20.0%(12人)、第5位木曾牛コロッケ11.7%(7人)、第6位すんきラーメンとトウモロコシ10.0%(6人)、第8位栗子餅8.3%(5人)、第9位ブルーベリー6.7%(4人)、第10位山菜5.0%(3人)の順であった。

愛知他隣県では、第1位蕎麦58.9%(66人)、第2位アイスクリーム31.3%(35人)、第3位

ブルーベリー18.8%21(人)、第4位トウモロコシ13.4%(15人)、第5位エゴマの五平餅と岩魚12.5%(14人)、第7位その他7.1%(8人)、第8位赤カブ漬けと山菜5.4%(6人)、第10位ほおば巻きと木曾牛コロッケ4.5%(5人)の順であった。

その他都道府県では、第1位蕎麦58.4%(45人)、第2位アイスクリーム29.9%(23人)、第3位ブルーベリーとエゴマの五平餅16.9%(13人)、第5位ほおば巻き13.0%(10人)、第6位その他10.4%(8人)、第7位トウモロコシ9.1%(7人)、第8位赤カブ漬けと山菜と蕎麦饅頭6.5%(5人)の順であった。

飲食しておいしかったものの中で、その他に具体的に記述されていたものを表9に示す。長野県の来訪者の記述はなかった。愛知他2県とその他都道府県であげられたものは、それぞれ1件であった。

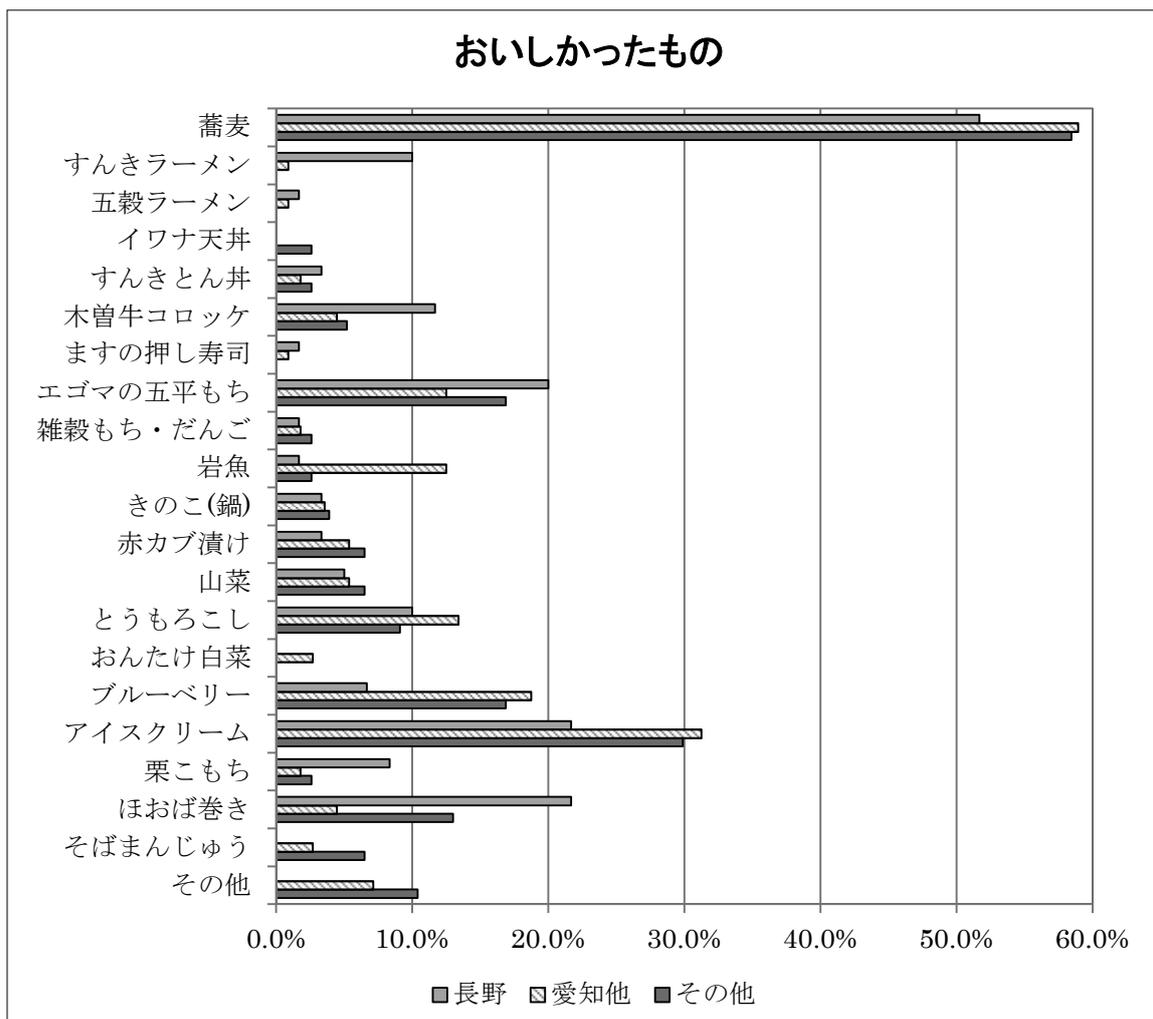


図20. 飲食しておいしかったもの

表9. 飲食しておいしかったもの、その他に挙げられた品目

| 長野県 | 愛知ほか | 其他都道府県 |
|-----|--------|--------|
| | うどん | ウナギ |
| | おやき | お弁当 |
| | カレーパン | 笹団子 |
| | きのこ | ジャム |
| | 信州サーモン | ソースかつ丼 |
| | とうじそば | トウモロコシ |
| | 抹茶プリン | 百草丸 |
| | わさび漬 | 焼肉 |
| | 塩イカ | リンゴ |
| | | みそ |
| | | とりよせ |

他にどんな（食材を使った）料理を食べてみたいですか（記述式問題）に対する回答を表10に示す。どの居住地域からの来訪者も「蕎麦」、「す

んき」に関心がある。それら以外に、長野県では「木曽牛など」1人、愛知他隣県では、「牛肉」2人、其他都道府県では、「牛肉」2人、「飛騨牛」2人、「信州牛」1人が示すように、木曽牛（または牛肉）に対する関心が広まりつつあるようだ。

3-11 木曽路の印象

木曽路の印象を図21に示す。よい印象を持った人はいずれの地域からの来訪者も70%以上となっている。

木曽町（木曽福島、開田高原または日義木曽駒高原道の駅）にまた来たいかという問いに関する集計結果を図22に示す。どの居住地域からの来訪者も、是非来たいと機会があれば来たいを合計するとほぼ90%を超え、木曽地区には好印象を持っていることがわかる。

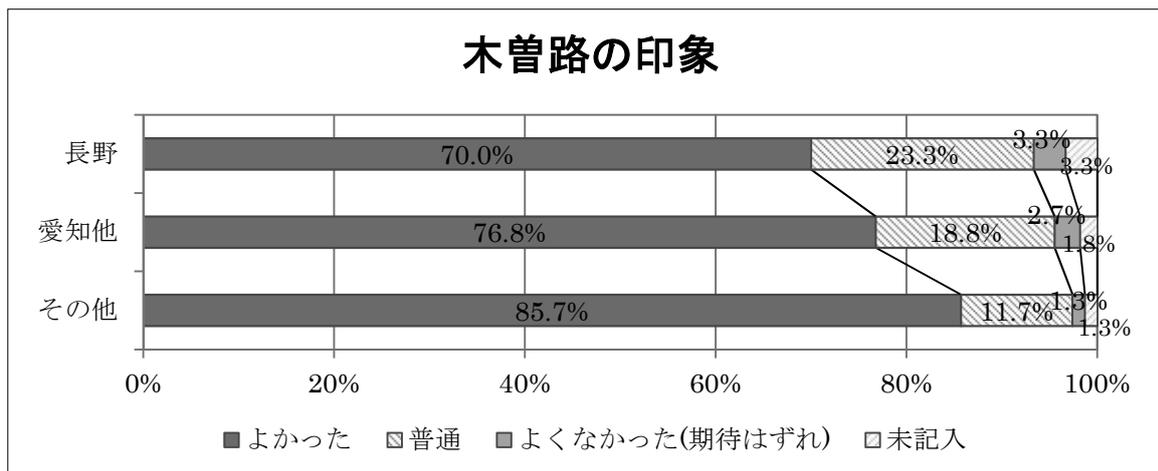


図21. 木曽路の印象

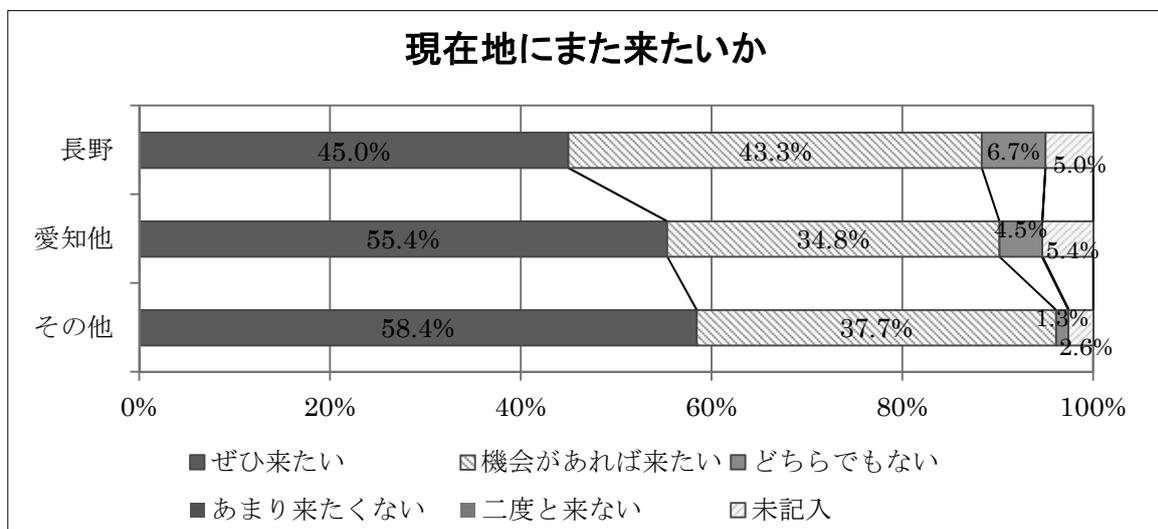


図22. 木曽路にまた来たいか

表 10. どんな（食材を使った）料理を食べてみたいですかに挙げられた品目

| 長野県 | | 愛知他 | | 其他都道府県 | |
|-------------------------|----|----------------------|----|----------------------|----|
| 品目 | 度数 | 品目 | 度数 | 品目 | 度数 |
| すんき | 2 | そば | 4 | そば | 3 |
| 木曾牛など | 1 | 川魚 | 2 | 木曾牛 | 2 |
| 地元ならではのものを 使ったアイデア料理 | 1 | 牛肉 | 2 | 飛騨牛 | 2 |
| すんきそば | 1 | 五平餅 | 2 | 鮎 | 1 |
| そば | 1 | アイスクリーム | 1 | 木曾の食材を使った食べモノ | 1 |
| ブルーベリー | 1 | 岩魚井 | 1 | きのこ | 1 |
| | | キノコ | 1 | 牛肉 | 1 |
| | | きのこピザ | 1 | 地場産品を使ったものなら食 べたい | 1 |
| | | 魚 | 1 | ジビエ | 1 |
| | | 山菜 | 1 | 地元の郷の味 | 1 |
| | | 山賊焼き | 1 | 地元の野菜 | 1 |
| | | ジェラート系 | 1 | 信州牛 | 1 |
| | | ジビエ料理 (熊、鹿、ウサギなど) | 1 | スイートコーン | 1 |
| | | 地元のもの（そば以外） | 1 | すんき | 1 |
| | | 地元の野菜を使った料理 | 1 | そば粉を使ったもの | 1 |
| | | すんき漬け | 1 | 豆腐 | 1 |
| | | 漬物 | 1 | 特産物 | 1 |
| | | とうもろこし | 1 | とろろ | 1 |
| | | 肉 | 1 | 肉 | 1 |
| | | ベリー（ブルーベリーほか） の料理 | 1 | 日本酒 | 1 |
| | | ほおば巻 | 1 | ほかのそば | 1 |
| | | 山の野菜 | 1 | ぼたん鍋 | 1 |
| | | ヨーグルト | 1 | 川魚 | 1 |
| | | 地元名産 | 1 | 地元産野菜を使ったイタリア ン | 1 |
| | | 乳製品 | 1 | | |
| | | 白菜 | 1 | | |

最後に「日本の美しい村連合」を知っているか尋ねた結果を図 23 に示す。長野県からの来訪者は 28.3%、愛知他隣県からの来訪者は 14.3%、其他都道府県からの来訪者は 7.8%が知っていると答えている。前回の 2012 年 10 月の調査で「知っている」と答えた人の割合は、長野県 29.6%、愛知他隣県 16.7%、其他都道府県 16.2%であった。長野県と愛知他隣県からの来訪者の比率は前回並み、其他都道府県からの来訪者の比率は 8 ポイント下がっている。調査時期（前回は 10 月、

今回は 7 月）がこの結果に影響している可能性がある。

4. 結

木曾福島地区、開田高原または道の駅日義木曾駒高原への来訪者に対して 2014 年 7 月 20 日（日）におこなったアンケート調査の結果を、長野県、愛知県他 2 県（愛知、静岡、岐阜）、其他都道府県からの来訪者の 3 つの居住地域に分けて集計・分析した。

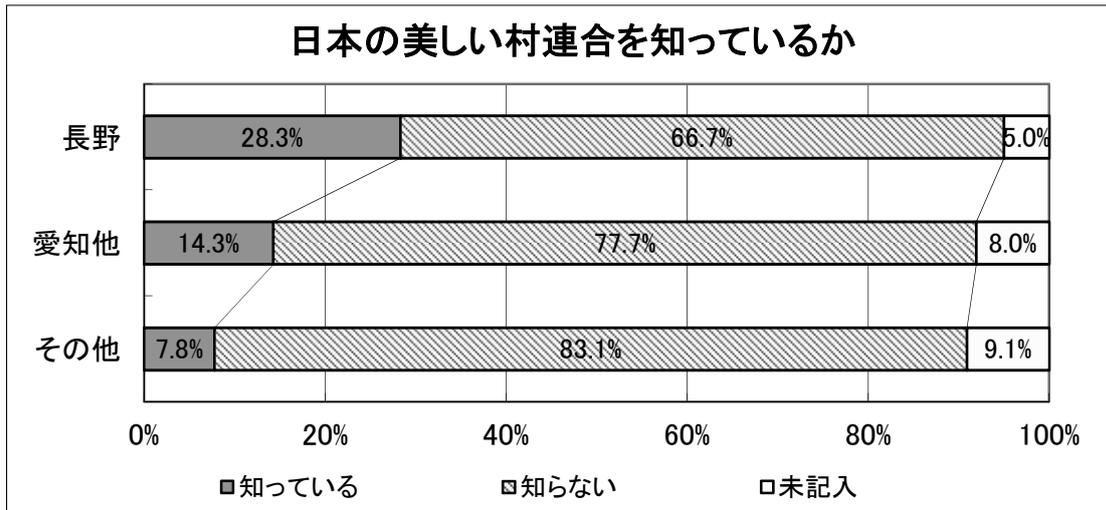


図 23. 日本の美しい村連合の認知度

来訪者の年齢構成（図2）を見ると40歳未満の割合は、長野県40.0%（24人）、愛知他隣県25.9%（29人）、その他の都道府県20.8%（16人）と、長野県からの来訪者の方が他の居住地域からの来訪者よりも14ポイントから19ポイント高くなっている。一方50歳以上の来訪者は、長野県46.7%（28人）、愛知他隣県54.5%（61人）、その他の都道府県48.1%（37人）と、愛知他隣県が他の居住地域よりも6ポイントから8ポイント高くなっている。

調査地点（図1）を見ると、長野県からの来訪者は、道の駅日義81.7%（49人）、開田高原11.7%（7人）で大部分（93.3%）を占めている。愛知他隣県からの来訪者は、道の駅日義50.0%（56人）、開田高原25.9%（29人）、木曾市場14.3%（16人）、その他都道府県からの来訪者は、道の駅日義42.9%（33人）、開田高原27.3%（21人）、木曾市場15.6%（12人）となっている。県外からの来訪者は、道の駅日義の割合が減少し、開田高原と木曾市場の割合が増加している。県外からの来訪者の方が長野県からの来訪者よりも年齢層が高い人の割合が大きいことが調査地点のデータに反映している可能性がある。木曾市場で扱っている果物や野菜は県外の中高年の人にとっては魅力的である一方、食に関しては、道の駅日義には、木曾牛コロッケ、手打ちそば、ソフトクリームなど地場の原材料を用いた食品で若年層（例えば40歳未満）を引きつけられるものがあるが、木曾市場には特に木曾を連想させる食ははっきりしないように思われる。

木曾町への来訪ルートを見てみる（図9から

図11c参照）。長野県からの来訪者の往路は「塩尻方面から」45.0%（27人/60人）、「伊那方面から」21.7%（13人/60人）、「中津川方面から」13.3%（8人/60人）が主な経路となっている。「塩尻方面から」の来訪者は「塩尻方面へ」77.8%（21人/27人）、「伊那方面から」の来訪者は「伊那方面へ」87.5%（10人/13人）、「中津川方面から」の来訪者は「中津川方面へ」87.5%（7人/8人）が帰路をとっている。基本的に行きに通った道を引き返している人が大部分であるようだ。

愛知県他隣県からの来訪者の往路は、「中津川方面から」58.0%（65人/112人）、「伊那方面から」9.8%（11人/112人）、「塩尻方面から」8.9%（10人/112人）の順となっている。「中津川方面から」の来訪者の帰路は「中津川方面へ」67.7%（44人/65人）、「高山方面へ」7.7%（5人/65人）、「塩尻方面へ」6.2%（4人/65人）、「伊那方面へ」4.6%（3人/65人）の順となっている。「伊那方面から」の来訪者の帰路は「伊那方面へ」と「中津川方面へ」がともに36.4%（4人/11人）、「高山方面へ」9.1%（1人/11人）の順であった。「塩尻方面から」の来訪者の帰路は「中津川方面へ」60.0%（6人/10人）、「塩尻方面へ」20.0%（2人/10人）の順であった。

その他都道府県からの来訪者の往路は、「伊那方面から」27.3%（21人/77人）、「中津川方面から」26.0%（20人/77人）、「塩尻方面から」18.2%（14人/77人）の順となっている。「伊那方面から」の来訪者の帰路は「伊那方面へ」66.7%（14人/21人）、「塩尻方面へ」、「中津川方面へ」と「伊那方面へ」がいずれも4.8%（1人

/21人)の順であった。「中津川方面から」の来訪者の帰路は「中津川方面へ」55.0% (11人/20人)、「塩尻方面へ」と「伊那方面へ」がともに15.0% (3人/15人)の順であった。「塩尻方面から」の来訪者の帰路は「塩尻方面へ」64.3% (9人/14人)、「中津川方面へ」14.3% (2人/15人)、「伊那方面へ」7.1% (1人/14人)の順であった。

現在地への来訪頻度(図12)を見ると、10回以上訪れている来訪者の割合は、長野県内では38.3% (23人/60人)、愛知他隣県からでは31.3% (35人/112人)で、それぞれの居住地からの来訪者の中で最も高い。3回以上の来訪者をリピータと呼ぶことにすると、長野県からのリピータは66.7% (40人/60人)、愛知他隣県からのリピータは62.5% (84人/112人)、その他の都道府県からのリピータは41.6% (32人/77人)となっている。長野県、愛知他隣県は木曾から近い位置にあるため訪れやすいことから、リピータも多いことや、何度でも訪れたいような魅力があることが考えられる。

来訪者が木曾町に訪れる目的を分析すると、単純集計(249人)ではドライブが(30.9%、77人)が最も多く、その他が(26.5%、66人)、自然の風景が(23.7%、59人)、温泉(足湯を含む)が(21.7%、54人)、飲食が(9.6%、24人)、産地直売品・おみやげが(7.2%、18人)、登山が(6.0%、15人)、木曾馬牧場が(5.6%、14人)、宿場ウォークが(4.4%、11人)、キャンプが(4.0%、10人)、トレッキングが(3.6%、9人)、溪流釣りが(2.4%、6人)の順であった。

来訪目的を居住地別に見てみると(図13参照)、長野県からの来訪者は、ドライブ23.3% (14人)、自然の風景21.7% (13人)、その他18.3% (11人)、産地直売品・おみやげ15.0% (9人)、温泉(足湯を含む)15.0% (9人)、飲食13.3% (8人)、木曾馬牧場10.0% (6人)、宿場ウォーク8.3% (5人)、トレッキング6.7% (4人)、溪流釣り3.3% (2人)、登山3.3% (2人)の順であった。

愛知他隣県からの来訪者は、ドライブ37.5% (42人)、その他30.4% (34人)、温泉(足湯を含む)21.4% (24人)、自然の風景20.5% (23人)、飲食8.0% (9人)、木曾馬牧場4.5% (5人)、登山4.5% (5人)、キャンプ3.6% (4人)、産地直売品・おみやげ3.6% (4人)、宿場ウォーク1.8% (2人)、溪流釣り1.8% (2人)の順であった。

その他の都道府県からの来訪者は、自然の風景

29.9% (23人)、ドライブ27.3% (21人)、温泉(足湯を含む)27.3% (21人)、その他27.3% (21人)、登山10.4% (8人)、飲食9.1% (7人)、キャンプ7.8% (6人)、トレッキング6.5% (5人)、産地直売品・おみやげ6.5% (5人)、宿場ウォーク5.2% (4人)、木曾馬牧場3.9% (3人)、溪流釣り2.6% (2人)の順であった。

どの居住地域からの来訪者でも、第1位から第4位までの来訪目的には、「ドライブ」、「その他」、「温泉(足湯を含む)」、「自然の風景」が入っている。ゆっくり過ごせる環境が木曾地域には整っていて、リフレッシュや気分転換するために訪れていることがわかる。調査当日の7月20日に蕨原マラソン大会開催されていたために、その他の割合が高くなっていると思われる(図表18参照)。

お土産で購入したもの(表6)は、「野菜」、「蕎麦」、「漬物」、「りんご」など地域の農産物、「蕎麦饅頭」「ほおば巻」、「おやき」等のお菓子類、「お箸」、「檜の小物」等の特産品、「御嶽百草丸」などが挙げられている。蕎麦、新鮮な野菜や果物、特産品などを購入していることがわかる。

未記入を除いて有効回答(225)の金額の区間の中央値を用いて、来訪者の旅費と宿泊費を除く一人当たりの予算(旅行予算)の平均値を求めてみる。2万円以上の区間では、中央値として30,000(25,000)円を用いた。

長野県からの来訪者(52人)の旅行予算の平均値は9,231円(8,462円)、愛知他隣県からの来訪者(102人)の旅行予算の平均値は11,004円(10,172円)、その他都道府県からの来訪者(71人)の旅行予算の平均値は18,310円(16,127円)となる。全来訪者(225人)の旅行予算の平均値は12,900円(11,656円)となる。

旅費と宿泊費を除く旅行の一人当たりの予算の中に含まれるお土産代についても有効回答(219)の金額の区間の中央値を用いて、来訪者1人当たりが使うお土産代の平均値を求めてみる。ただし、1万円以上の区間の中央値としては15,000円(12,500円)を用いた。

長野県からの来訪者(51人)のお土産代の平均値は3,353円(3,304円)、愛知他隣県からの来訪者(102人)のお土産代の平均値は3,510円(3,412円)、その他都道府県からの来訪者(66人)のお土産代の平均値は5,485円(5,220円)となる。全来訪者(219人)のお土産代の平均値は4,069円(3,932円)となる。

お土産として探しているもの（表7）は、トウモロコシや蕎麦、野菜などの食べ物や地元の名産品などを探していることがわかる。

この地域に関するほしい情報（3つまで選択）を単純集計した結果（249人）からみると、食事の楽しめる場所が（35.3%、88人）と最も多く、温泉施設が（34.5%、86人）、季節のイベントや催しが（24.1%、60人）、自然に触れあえる場所が（23.3%、58人）、ドライブコース・道路が（15.7%、39人）、農産物直売所が（14.9%、37人）、必要ないが（5.6%、14人）、その他が（3.2%、8人）、空き家（住居）情報、わからないが（2.8%、7人）、地元民との交流が（2.4%、6人）の順であった。

どこからの来訪者でも、温泉施設、食事の楽しめる場所の情報がほしいと回答している。前回の調査と比べてみても順位に変動がないことから、現地（木曾地域）に来てからもこれらの情報を得やすいようにする必要があるかもしれない。

来訪者の現在地（木曾福島地区、開田高原、日義木曾駒高原道の駅および木曾市場、）に関する情報収集の方法を全体（249人）でみると、以前に来たが（26.5%、66人）が最も多く、ここではじめてが（16.5%、41人）、観光パンフが（12.0%、30人）、インターネットが（11.6%、29人）、道沿いの看板、ガイドブックが（10.4%、26人）、その他が（6.8%、17人）、口コミが（5.2%、13人）、テレビ・ラジオ、新聞・チラシ（0.8%、2人）の順であった。

求めている情報収集の集計結果から、長野県からは、以前から知っておりリピータとして訪れている方が多くいる。また観光パンフやガイドブックなどの情報冊子で情報を得ていることがわかる。

愛知他隣県からは、以前に来たが多くなっていることから、ここでもリピータの方が多くいることがわかる。初めて訪れて情報を集めていたり道沿いの看板を見て情報収集を行っていたりしていることがわかる。

その他の都道府県からは、初めて訪れて情報を得ている方が多くいる。また他県と比べてもガイドブックや観光パンフなどの情報冊子で情報を得ている方が多いこともわかる。

木曾の街並みや風景、スローフード、漆器などの伝統工芸、お祭り等のイベントなどアピールできるところが数多くあることが木曾地域の魅力となっていると思われる。ガイドブックやパンフレ

ットから情報を得ている方が数多くいたので、町中のお店などにパンフレットを置いてあることも観光客にとっては有用な情報を得る手段であろう。

記述式の問いに対しての答えから、長野県からの来訪者よりも愛知他隣県、その他都道府県からの来訪者の方の方が木曾町に対して興味を持っているといえる。

この調査に参加した松商学園高等学校の生徒は、2年生5名（秋山恵里奈、大谷研佑、佐々木みなみ、深澤すずか、中川綾乃）、3年生11名（岡村圭悟、小西優典、櫻井亮介、高橋昂宏、田口裕斗、二村瑠輝、野澤梨紗、藤本さつき、古畑如菜、細野和之、宮下竜弥）、合計16名であった。また、松本大学総合経営学部から参加した学生は、1年生6名（畔上真侑、黒沢翔加、手塚正也、西澤安理彩、西村俊、花崎友基）、2年生6名（有井直也、滝沢雅之、高木鷹憲、高山孝太、筒井歩実、丁霞）、4年生4名（上原瑞季、田中万葉、永井美穂、西澤美奈）、合計16名であった。

文 献

- ¹⁾ 鈴木尚通, 葛西和廣, 田中正敏, 成 耆政, 佐藤 進, 木曾町における観光客の動向に関する調査・研究 (I), 松本大学研究紀要, 第10号, 2012年, pp.119-143.
- ²⁾ 鈴木尚通, 葛西和廣, 田中正敏, 成 耆政, 佐藤 進, 木曾町における観光客の動向に関する調査・研究 (II), 松本大学研究紀要, 第11号, 2013年, pp.117-143.
- ³⁾ 葛西和廣, 田中正敏, 成 耆政, 佐藤 進, 鈴木尚通, 木曾町における観光客の動向に関する調査・研究 (III), 松本大学研究紀要, 第12号, 2014年, pp.135-157.

アンケート調査（木曾福島地区、道の駅日義、木曾市場、開田高原を訪れた方対象）

Q0 調査地点：福島地区(①足湯, ②上の段, ③代官屋敷) ④道の駅日義 ⑤木曾市場 ⑥開田高原

Q1 お住まい（ご自宅）はどちらですか

①都道府県 1)長野県 2)愛知県 3)岐阜県 4)静岡県 5)その他() 都・道・府・県)
②市町村 () 市・町・村)

Q2 ①性別と②年齢を教えてください

①性別 1)男 2)女
②年齢 1)20歳未満 2)20歳代 3)30歳代 4)40歳代 5)50歳代
6)60歳代 7)70歳以上

Q3 今回の旅行に関する次の質問にお答えいただけますか

①日程： 1) 日帰り 2) 1泊2日 3) 2泊3日 4) 3泊4日以上
②今日は：1) 1日目 2) 2日目 3) 3日目 4) 4日目以上
③宿泊地：a) 1泊目 1)木曾町 2)その他[] b) 2泊目 1)木曾町 2)その他[]
④観光コース： 1日目 () → 2日目 ()
→ 3日目 () → 4日目以降 ()

Q4 現在地(福島地区、道の駅日義、木曾市場、または場開田高原)で何時間ぐらい過ごされますか

1) 30分未満 2) 30分以上～1時間未満 3) 1時間以上～2時間未満
4) 2時間以上～3時間未満 5) 3時間以上～4時間未満 6) 4時間以上

Q5 どなたと旅行されていますか

1)単独 2)友人知人 3)家族(子連れ) 4)家族(大人のみ) 5)夫婦
6)カップル(未婚) 7)職場団体 8)ツアー団体 9)その他()

Q6 主な交通手段は何ですか

1)マイカー 2)バイク 3)自転車 4)観光バス 5)鉄道(JR) 6)中央高速バス
7)タクシー 8)その他()

Q7 今回の旅行でどのようなルートを使っていますか(予定を含む) (複数回答可)

①往路：1)塩尻方面から 2)中津川方面 3)伊那方面 4)高山方面 5)その他()
②帰路：1)塩尻方面へ 2)中津川方面 3)伊那方面 4)高山方面 5)その他()

Q8 現在地(木曾福島、道の駅日義、木曾市場、開田高原)に今までに何回来たことがありますか

1)はじめて 2)2回目 3)3～5回目 4)6～9回目 5)10回以上

Q9 木曾町を訪れた目的は何ですか (3つまで選んでください)

①自然の風景 ②ドライブ ③木曾馬牧場 ④温泉(足湯も含む) ⑤宿場ウォーク
⑥トレッキング ⑦登山 ⑧溪流釣り ⑨キャンプ ⑩産地直売品・おみやげ
⑪飲食() ⑫その他()

Q10 今回の旅行で訪れた(訪れる予定の)場所を教えてください (5つまで選んでください)。

1)木曾くらしの工芸館(道の駅ならかわ) 2)平沢漆器街 3)奈良井宿 4)鳥居峠
5)やぶはら高原(こだまの森) 6)藪原宿 7)義仲館 8)福島関所
9)山村代官屋敷 10)上の段の街並み 11)興禅寺 12)ふるさと体験館きそふくしま
13)開田高原(九蔵峠展望台を含む) 14)木曾馬の里 15)やまゆり荘 16)木曾駒高原
17)彩菜館 18)道の駅日義木曾駒高原 19)道の駅木曾福島(木曾市場) 20)道の駅三岳
21)御嶽山 22)御岳ロープウェイ 23)御嶽神社 24)油木美林 25)寝覚の床
26)赤沢自然休養林 27)道の駅大桑(木楽舎) 28)フォレスパ木曾 29)桃介橋 30)妻籠宿
31)馬籠宿(藤村記念館) 32)その他()

松商学園高等学校・松本大学 2014.7.20(日)

Q11 どこで現在地（木曾福島，道の駅日義，開田高原等）の情報を集めましたか（3つまで）

- 1)ここに来てはじめて知った 2)口コミ 3)ガイドブック 4)観光パンフ 5)道沿いの看板
6)新聞・チラシ 7)インターネット 8)テレビ・ラジオ 9)以前来た 10)その他()

Q12 今後この地域のどんな地域情報がほしいですか（3つまで選んでください）

- 1)温泉施設 2)自然にふれあえる場所 3)食事の楽しめる場所 4)季節のイベントや催し
5)農産物直売所 6)地元民との交流 7)空き家（移住）情報 8)ドライブコース・道路
9)その他() 10)必要ない 11)わからない

Q13a 今回の旅行で（旅費，宿泊費を除く）予算は1人当たり大体いくらですか

- 1) 5千円未満 2) 5千円～1万円未満 3) 1万円～1万5千円未満
4) 1万5千円～2万円未満 5) 2万円以上

Q13b そのうち，お土産代はいくらくらいですか

- 1) 2千円未満 2) 2千円～4千円未満 3) 4千円～6千円未満
4) 6千円～8千円未満 5) 8千円～1万円未満 6) 1万円以上

Q14a お土産に何を買いましたか ()

Q14b お土産にどんなものを探していますか()

Q14c おみやげの製造元(どこで製造されたか)を調べた上で買いますか

- 1)はい 2)いいえ 理由 ()

Q15a この地域で食べたもので，何がおいしかったですか（5つまで選んでください）

- 1)蕎麦 2)すんきラーメン 3)五穀ラーメン 4)岩魚天井 5)すんきとん井
6)木曾牛コロッケ 7)ますの押し寿司 8)エゴマの五平もち 9)雑穀もち・だんご 10)岩魚
11)きのこ（鍋） 12)赤カブ漬け 13)山菜 14)とうもろこし 15)おんたけ白菜
16)ブルーベリー 17)アイスクリーム 18)栗こもち 19)ほおば巻き 20)そばまんじゅう
21)その他 ()

Q15b この地域で，ほかにどんなもの（どんな食材を使った料理）を食べてみたいですか？
()

Q16 木曾路の印象はいかがですか

- 1)良かった 2)普通 3)良くなかった（期待はずれ）→理由 ()

Q17 また現在地(木曾福島，道の駅日義，木曾市場，または開田高原)に来たいと思いますか

- 1)ぜひ来たい 2)機会があれば来たい 3)どちらでもない 4)あまり来たくない
5)二度と来ない

Q18 「日本で最も美しい村連合」をご存じですか

- 1)知っている 2)知らなかった

現在，全国で53地域，長野県では7町村（大鹿村，木曾町，中川村，南木曾町，小川村，池田町，高山村）が参加しています。

ご協力ありがとうございました。